

令和6年度加美町議会決算審査特別委員会会議録第3号

令和7年9月17日（水曜日）

出席委員（14名）

委員長	三浦又英君	副委員長	伊藤淳君
委員	田中草太君	委員	早坂潔君
委員	今野清人君	委員	佐藤圭介君
委員	早坂伊佐雄君	委員	早坂忠幸君
委員	伊藤由子君	委員	木村哲夫君
委員	三浦英典君	委員	沼田雄哉君
委員	米木正二君	委員	高橋聡輔君

欠席委員（なし）

説明のため出席した者

副町長	千葉伸君
総務課長・選挙 管理委員会書記長	佐々木実君
代表監査委員	田中正志君
会計管理者兼会計課長	相澤栄悦君
会計課課長補佐 兼審査係長	村山みゆき君
企画財政課長	内海茂君
企画財政課課長補佐 兼企画政策係長	後藤崇史君
企画財政課主幹 兼財政係長	塩田大輔君
企画財政課主幹 兼デジタル化推進係長	佐々木裕次郎君
行政経営推進課長 兼新庁舎整備室長	庄司一彦君
行政経営推進課課長補佐 兼行財政改革推進係長	門間義則君

行政経営推進課 新庁舎整備室室長補佐 兼新庁舎整備係長	高橋康雄君
上下水道課長	塩田雅史君
上下水道課課長補佐 兼総務係長	佐藤嘉一君
上下水道課主幹	小澤智樹君
上下水道課副参事 兼建設係長 兼施設管理係長	早坂伸家君
上下水道課主査	佐藤文香君
上下水道課主査	大場利之君
農業委員会事務局長	佐藤登志子君
農業委員会事務局次長 兼農政係長	佐藤美智子君
農業委員会主幹 兼農地係長	畠山明大君
農林課長	尾形一浩君
農林課課長補佐 兼農村整備係長	中山芳治君
農林課副参事 兼農業振興係長	西塚新也君
農林課主幹 兼畜産係長	菅原敏之君
農林課主幹 兼鳥獣対策係長	大場政之輔君
農業振興対策室長	我孫子裕二君
森林整備対策室長	後藤勉君
森林整備対策室主幹 兼林業振興係長	高橋幸太郎君
森林整備対策室 地域林政アドバイザー	三浦守男君
商工観光課長	阿部正志君
商工観光課参事	伊藤希由君
商工観光課主幹 兼観光振興係長 兼国際ビジネス推進係長	早坂大祐君

事務局職員出席者

事 務 局 長	青 木 成 義 君
次長兼議事調査係長	尾 形 智 弘 君
主 幹 兼 総 務 係 長	猪 股 直 人 君
主 事	千 葉 奏 衣 君

審査日程

- 認定第 1 号 令和 6 年度加美町一般会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 2 号 令和 6 年度加美町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 3 号 令和 6 年度加美町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 4 号 令和 6 年度加美町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 5 号 令和 6 年度加美町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 6 号 令和 6 年度加美郡介護認定審査会特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 7 号 令和 6 年度加美町霊園事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 8 号 令和 6 年度加美町営駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 9 号 令和 6 年度加美町下水道事業会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 10 号 令和 6 年度加美町水道事業会計歳入歳出決算認定について
-

本日の会議に付した事件

- 認定第 1 号 令和 6 年度加美町一般会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 2 号 令和 6 年度加美町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 3 号 令和 6 年度加美町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 4 号 令和 6 年度加美町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 5 号 令和 6 年度加美町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 6 号 令和 6 年度加美郡介護認定審査会特別会計歳入歳出決算認定について

- 認定第 7 号 令和 6 年度加美町霊園事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 8 号 令和 6 年度加美町営駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 9 号 令和 6 年度加美町下水道事業会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 10 号 令和 6 年度加美町水道事業会計歳入歳出決算認定について

午前10時00分 開議

○委員長（三浦又英君） ご参集の皆様、ご起立願います。おはようございます。ご着席願います。

ただいまの出席委員は14名であります。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

9月16日に引き続き、決算の審査を行います。

認定第 1号 令和6年度加美町一般会計歳入歳出決算認定について

認定第 2号 令和6年度加美町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 3号 令和6年度加美町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 4号 令和6年度加美町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 5号 令和6年度加美町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 6号 令和6年度加美郡介護認定審査会特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 7号 令和6年度加美町霊園事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 8号 令和6年度加美町営駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第 9号 令和6年度加美町下水道事業会計歳入歳出決算認定について

認定第10号 令和6年度加美町水道事業会計歳入歳出決算認定について

○委員長（三浦又英君） ここで、危機対策課長より発言の申出がありますので、これを許可いたします。危機対策課長。

○危機対策課長（早坂 卓君） おはようございます。危機対策課長です。

昨日、8番委員さんよりご質問のありました防災指導員の地区別の人数について資料を持ち合わせていないため保留となっておりました。本日資料を持ってまいりましたので、担当よりご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 防災係長。

○危機対策課主幹兼消防防災係長（早坂智典君） 危機対策課主幹兼消防防災係長でございます。よろしくお願いいたします。

成果表54ページ、災害対策事業の中の防災指導員の育成につきまして、防災指導員の地区別人数でございますが、現在、町内で防災指導員の資格を有している方は全部で208名、中新田地

区が119名、小野田地区が41名、宮崎地区が48名となっております、昨年11月24日に実施しましたフォローアップ研修に参加された方は208名のうち、31名が参加されております。

防災指導員の地区別の人数につきましては、以上となります。

あともう1つちょっと報告ございまして、決算書36ページ、歳入8目の東日本大震災復興基金繰入金についてでございます。危機管理室、今の危機対策課で東京電力へ賠償請求をしている項目は、3項目ございます。

1つ目の項目がまき原木放射能測定、放射性物質測定検査料となっております。昨日キノコの原木ということでちょっとお話しさせていただきましたが、キノコの原木ではなくてまきの原木ということでご理解いただければと思います。あと所管につきましても、農林課所管ということでお話しさせていただきましたが、正しくは森林整備対策室の所管になりますので、よろしく願いいたします。すみません。決算書が44ページの雑入の部分になります。大変失礼しました。決算書44ページ、雑入となります。

続きまして、賠償請求の項目の2つ目が、野生クサソテツ、コゴミの表示票作成となります。

あとは項目の3つ目、食品自主検査用放射能測定器の校正費用を請求しております。こちらの項目の2つ目コゴミの表示票作成と、項目の3つ目放射能の測定器の校正費用の所管は農林課となっておりますので、よろしく願いいたします。

以上、報告となります。よろしく願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 答弁に関しての質問に関しては、同じ項目3項目やっておりますので終わります。

続きまして、総務課長より発言の申出がありますので、これを許可いたします。総務課長。

○総務課長・選挙管理委員会書記長（佐々木 実君） 皆さんおはようございます。総務課長です。

私のほうからは、昨日の決算審査特別委員会の総務課の令和6年度事業の内容等について、沼田委員さんのほうから総務課の広報広聴係が編集する広報かみまちについてのご質問をいただきました。内容につきましては、お亡くなりになった方のお名前を広報紙のお悔やみ欄への掲載に関するものでございましたので、このことにつきましては、町民課、小野田支所、宮崎支所が所管する事業ということでございますので、申し上げることができませんでした。

昨日町民課の決算審査、支所の決算審査は終了していますので、私のほうから町民課からいただいた資料に基づいて報告をさせていただきたいと思います。親族の方などにより、役場の窓口等に死亡届出があった場合、職員等が他の書類と一緒に広報紙のお悔やみ欄への掲載についての説明書もお渡しをしております。遺族の方が掲載を希望した場合は、広報かみまちお悔

み欄への掲載申出書という様式を書いて提出いただいております。それで確認を行って掲載をしているというような状況でございます。その上で、令和6年度の死亡届出の件数につきましては400件ございまして、加美町以外に住所がある方もこの中には含まれているんですが、そのうち広報紙に掲載したのは125件というような実績となっております。

追加報告は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） よろしいですね。では進みます。

それでは会計課の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） おはようございます。会計課でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは概要説明書の21ページをお開きください。

初めに、基金運用についてご説明申し上げます。令和7年3月末における28の基金の総額は、67億7,256万7,413円で、保管の内訳は普通預金が6億5,691万5,413円、定期預金が25億5,600万円、有価証券が35億5,965万2,000円となっております。いずれも安全かつ有利な方法による保管に努めております。預金利子については令和6年3月にマイナス金利政策が終了し、令和6年9月と令和7年1月に預金金利の改定が行われております。適宜、定期預金の更新を行っております。債券等の金利についても、令和5年の後半から短期・長期ともに上昇傾向にあり、債券等による運用を増額しております。また、保有している債券の見直しを行い、好条件の債券と入替えを行い、収益の確保に努めております。今後新庁舎整備を踏まえ、計画的な管理運用を行ってまいります。参考に令和6年度と令和5年度の比較、保管状況を比較したものを掲載しておりますのでご覧いただきたいと思います。

続きまして、一般会計歳入17款1項2目利子及び配当金です。利子及び配当金の総額は3,419万9,081円で、前年度比922万8,973円の増となりました。株式配当金26万8,365円は、東北電力ほか7社からの配当金となっております。

21款2項1目町預金利子です。歳計現金預金利子は78万4,348円で、前年度比76万6,111円の増となっております。

21款5項1目雑入です。歳計外預金利子については1万4,724円となっております。

続きまして歳出です。

2款1項4目会計管理費です。会計管理費の歳出総額は320万3,376円で、前年度比218万9,805円の増額となっております。増額の主な要因は、令和6年10月から公金振込みが有料とな

り、新たに180万3,461円の手数料が発生したことによるものでございます。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。

9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） まず今、金利の関係をお伺いいたします。今の説明ですと、普通とか定期から有価証券のほうに移動したように思われますけれども、その金利の状況を教えていただければ。それで移動したことによってどのぐらい益が出たといいますか、その辺説明をお願いいたします。

2つ目は手数料ということで180万円ほど出ておりますが、この内容についてお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） 最初に金利の説明をさせていただきたいと思います。

令和9年3月にマイナス金利政策が終了いたしまして、まず定期預金の金利が9月に0.125、その前が0.002とかそれぐらいのレベルだったんですけれども、9月に0.125になってございます。1月にさらに0.25になってございます。

また、債券の金利につきましては、債券発行する、私もちょっと会計課に来て分かったんです。債券発行の利子につきましては、基本になるのが国債の利子が基本になっておりまして、その国債の金利プラス、0.何ポイントかプラスした金利設定ということでございます。ちなみに国債の10年物の金利がたしか令和5年の当初で0.4とか0.5だったものが、半年で0.8、0.9ぐらいまで上昇しておりまして、その流れがずっと上昇傾向で今に来ているというような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 手数料は。内容、会計課長補佐兼審査係長。

○会計課課長補佐兼審査係長（村山みゆき君） 課長補佐です。

手数料増額分について、内容をご説明いたします。

令和6年10月、昨年度令和6年度の半年分の増額になるんですけれども、内国為替制度の運用費が公金等の振込時にも適用されることとなった改正によるものです。内訳としましては七十七銀行さんの、こちらが指定金融機関となっております七十七銀行のファームバンキングや窓口取扱手数料が七十七銀行から七十七銀行宛てですと1件38円。七十七銀行から他行宛てですと1件100円というふうに、手数料が発生しております。七十七銀行宛てのほうで1万6,952

件、他行宛てのほうで9,860件になっております。その他ゆうちょ銀行のほうで、ＡＴＭからの振込手数料というのが、こちらで1件68円。件数としまして151件ございます。そちらの合計が180万3,461円となっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑ございませんか。1番田中委員。

○1番（田中草太君） 概要説明書の21ページのところなんですけれども、有価証券の比率が大きく上げられていて、利子及び配当が3,419万円の利回りで考えると、自治体の基金でいうと同じ規模のかなりいいというか、すごく利益が出ていてすばらしいな、すばらしいんじゃないかなと思ったんですけれども、有価証券を高められた背景をぜひ聞きたいなというのと、あとは有価証券の内訳、お聞かせいただければと思います。

○委員長（三浦又英君） 会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） 会計課長です。ありがとうございます。

基金運用につきましては、毎年公金管理運用会議というものを開いております。メンバーは副町長、総務課長、企画財政課長、私4人のメンバーで、大体6月にその前の年度の決算が大体決まって決算剰余金積立額が確定した時期に、その年度にどれぐらい運用しましょうかというような内容を検討する会議でございます。その中で、債券とあと定期預金、あと普通預金でどれぐらいで保管するかというおおむねの方針というか、ものを決定いたします。それに従って運用をしているという状況でございます。

令和6年度につきましては、先ほどお話ししたように、債券の金利が上昇しております、全体で5億、6億円ぐらいですかね、債券運用のほうに回してございます。それと新規で購入したのが大体6億円でございます、入替えというのをやっております。これは金利上昇しますと債券の価格が下がるんですね。下がりますものですから、手持ちの債権で高く売れるものを売却をして、安くなった条件のいいものと入替えをしたということで、ある程度運用益を生むことができたかなと考えてございます。

○委員長（三浦又英君） 1番田中委員。

○1番（田中草太君） 有価証券の内訳をお話いただくことは可能ですか。

○委員長（三浦又英君） 会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） 会計課長です。

有価証券の内訳なんです、ちょっと手元に正確なものは持ち合わせていないんですけれども、今、加美町が保有している有価証券については国債と、あと事業債と言われます電力債で

すかね、東北電力とか東京電力が発行している電力債。あとは財政投資資金といいますか、そういう関係、あとは宮城県とか自治体が発行する地方債などを保有してございます。

○委員長（三浦又英君） 1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） 答弁結構なんですけれども、しっかり基金で稼ぐということはすばらしいなと考えておりますので、ぜひ今後も結構自治体のモデルになり得ることかなと思いましたので、引き続きしていただければいいかなと思いました。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 12番伊藤 淳委員。

○12番（伊藤 淳君） 33ページ、ただいまの説明いただいた際に、33ページのちょっと待ってね。株式配当金、ただいま説明ありました。それで昨対でもって九百何がしの運用益を組んだという、大変すばらしいことだと思います。それでさっきの説明の中で、私ちょっと耳が悪いのか、聞き間違いなのか。株式は東北電力ほか、ここには4社って書いてあるんですけれども、今、課長7社って言わなかったですかね。7社って言ったね。これ4社ですね、その4社の内訳、詳細をお願いしたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） 会計課長です。

大変失礼いたしました。4社でございます。皆さんの決算書の387ページをお開きをいただきたいと思います。そこに有価証券というところで株式保有している5社の内訳が記載されております。備考の欄に保有している株式数、株数を記載しております。現在高については1株当たり500円で計算しているようでございます。

ちなみに、最近株価が上昇しておりまして、先週の株価で計算しますと大体1,000万円ぐらいの評価額になるかと思っております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 12番伊藤 淳委員。

○12番（伊藤 淳君） 私ちょっと資料を見落としたんですね。387ページ、それで今、説明ありましたけれどもこれ昨年と比べましてというか、昨年と同じ株ですか、それとも買換えとかありましたか。

○委員長（三浦又英君） 会計課長。

○会計管理者兼会計課長（相澤栄悦君） 会計課長です。

株式につきましては、これ旧中新田町が保有していた株を引き継いでおりまして、合併後株

式には移動はございません。

○委員長（三浦又英君） その他ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて、会計課の所管する決算については質疑を終わります。

それでは、担当課の入替えのため暫時休憩いたします。

なお、委員の皆様におかれましては、そのままお待ち願います。

会計課、ご苦労さまでした。

午前１０時２１分 休憩

午前１０時２２分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、企画財政課の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。企画財政課長。

○企画財政課長（内海 茂君） おはようございます。本日企画財政課から４名出席させていただいて、説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、令和６年度企画財政課の所管事業の概要についてご説明させていただきます。

一般会計歳入、２２ページになります。

１１款１項１目地方交付税のうち、普通交付税につきましては、決算額は５３億７２６万８、０００円で、前年度対比１、６２７万４、０００円の減となりました。要因といたしましては、国税の増収に基づく再算定により追加交付が行われた一方で、交付税の算定根拠となる基礎数値や測定件数の減により、基準財政需要額が前年度対比５、６８８万１、０００円減少したことによるものです。

特別交付税につきましては、決算額は４億８、６１１万１、０００円で、前年度対比７、０００万３、０００円の増となりました。内訳といたしましては、通常分につきましては、前年度対比５、１００万５、０００円増の４億７１４万６、０００円の決算額となっております。主な要因といたしましては、住民バス等地域交通対策費や地域おこし協力隊経費の増などによるものです。

続きまして、震災復興分につきましては、前年度対比１、８９９万８、０００円増の７、８９６万５、０００円の決算額となっております。増額となった要因につきましては、利用自粛牧草等処理作業委託料の増などによるものです。

続きまして、１５款２項１目総務費国庫補助金です。自治体間中間サーバープラットフォーム運用経費交付金３８７万６、０００円は、全国市町村が共有で使用している中間サーバーの更新費用における加美町負担金相当額になります。

デジタル田園都市国家構想交付金のうち213万円は、窓口の利便性向上、業務効率化を目的とした書かない窓口導入業務に活用しております。

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金につきましては、前年度対比で4,405万9,000円増額の4億1,710万7,000円となっており、2款1項16目新型コロナウイルス感染症対策費、2款1項17目新たな経済に向けた給付金定額減税一体措置費、2款1項18目重点支援地方交付金事業費にそれぞれ充当し、担当課で各種事業を実施しております。

次のページをご覧ください。

続きまして歳出です。

2款1項3目財政管理費の決算額は6,624万6,000円で、前年度対比1,381万6,000円の増となりました。増額となった主な要因につきましては、臨時財政対策債償還分として普通交付税の追加交付が行われたことに伴い、減債基金積立金が前年度比1,120万1,000円の増になったことによるものです。

続きまして、2款1項6目企画費のうち、企画財政課所管分の決算額は2億5,771万5,000円で、前年度対比1億6,590万8,000円の増となりました。増額となった主な要因につきましては、基金統合により新設したまちづくり推進基金への積立金1億3,712万6,000円の増、自治総合区民センター助成事業として、上狼塚行政区の集会所新築事業への補助金1,500万円の増、新たに取組んだ女性活躍推進事業委託料142万9,000円の増、令和6年度に策定した第三次加美町総合計画の作成支援業務委託料1,980万円の増などによるものです。

企画費の各事業の概要につきましては、記載のとおりとなりますので、説明のほうは省略させていただきます。

24ページになります。

2款1項7目情報システム費の決算額は2億1,351万円で、前年度対比1,128万3,000円の増となりました。主な要因につきましては、借上げ期間満了に伴う内部情報システム借上料は433万7,000円の減となりましたが、書かない窓口の導入による改修委託料473万円の増、老朽化していた基幹系バックボーンスイッチの更改による情報システム委託料1,367万2,000円の増のほか、例年より大規模な支障移転工事に伴う564万3,000円の増によるものです。

続きまして、2款1項12目細目2その他諸費については、決算額は483万5,000円で前年度対比488万8,000円の減となりました。主な要因につきましては、研修バス運営事業の廃止による796万2,000円の減と、上狼塚行政区コミュニティーセンター新築工事補助金387万1,000円の増によるものです。集落活動拠点整備事業として、行政活動の拠点である集会所のエアコン設置、

床修繕工事等 8 件に対して助成し、活動拠点の整備による集落機能向上を図っております。

続きまして、2 款 5 項 1 目統計調査総務費の決算額は578万5,000円で、職員人件費の増などにより、前年度対比39万5,000円の増となっております。

2 款 5 項 2 目指定統計調査費の決算額は500万8,000円で、前年度対比404万2,000円の増となりました。増額の主な要因は、全国家計構造調査及び農林業センサスによるものでございます。

最後に12款 1 項公債費です。元金償還の決算額は14億287万4,000円で、前年度対比1,796万円の増となっております。増となった要因につきましては、借換債の発行が前年度対比 1 億1,010 万円の増となったことによるものです。なお地方債現在高は、前年度比 6 億287万5,000円の減となっております。利子償還の決算額につきましては2,376万9,000円で、前年度対比483万円の増となりました。増となった要因につきましては、5 年ごとの利率見直しによるものでございます。

以上、企画財政課の所管概要説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。

8 番伊藤由子委員。

○8 番（伊藤由子君） 2 点ほどお伺いします。

最初に、成果表が63ページ、決算書64ページです。上多田川地域活性化事業、白子田、青滝というんですか、地域活性化事業についてなんですが、成果指標を見ていきますと、人口が減っているということもありまして、利用者がちょっと目標に届かない、減ってきているという状況にあります。上多田川も白子田方面も同様ですが、これ補助金だけに頼らないで、地域内の世帯から会費を集めて運行しているという記述があって、実際それを私も耳にしているわけなんですが、この規約、補助金の規約というのはどうなっているのかなとちょっと気になっています。というのも、あと向こう何年かしたらもっともっと人口が減って利用者が減っていくだろうと予想できるわけなんですが、そのときに補助金はどういうふうな、もっとそれに応じてどんどん増やしていくとか、そういうふうになっていくのかどうか。補助金の規約みたいなものがどうなっているのかお伺いしたいです。

○委員長（三浦又英君） もう 1 点。

○8 番（伊藤由子君） 成果表66ページ、決算書65ページです。ここに男女共同参画の取組について、いろいろな詳しく載っているわけなんですが、例えば成果指標を見ますと、加美町は審議会等委員への女性登用率はすごく高くて、県内でもトップのほうにあるかと思います。国の30%を超えているというふうに、国の目標を超えているほどかなと私は思っていますが、その

中で男女共同参画セミナーがとても多種多様なセミナーをしていて、素晴らしいなと思っているんですが、この参加者がなかなか増えていかないかなと気になっていますが、昨年度との比較をしてみたらこの参加者はどういう状況にあるのか、まずそれをお伺いしたいと思います。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼企画政策係長。

○企画財政課課長補佐兼企画政策係長（後藤崇史君） 企画財政課課長補佐兼企画政策係長です。

まず地域活性化協議会への助成事業の件でございます。上多田川地域活性化事業につきましては、令和6年度、大体事業費につきまして、こちら450万円ほどの事業費になってございまして、その中で地域の方が会員74名ほどございます。会費につきましては、年会費1万4,400円を74人の会員が会費として運営しているんですが、それを充てても全然回らないというような状況にございます。それで令和6年度につきましては150万円の補助を出してございます。こちらにつきましては、令和5年度に135万円補助を出してございまして、やはり利用者数の減や物価高騰による運営費が上がってきてございまして、令和6年度につきましては150万円、なお今年度令和7年度につきましては、10万円アップしてございまして160万円出してございます。

また、白青滝地域活性化事業につきましては、こちらの事業費は約400万円で運営していると。会員は上多田川よりは少なく、31戸の会員がございまして。こちらは会費1人につきまして年間1万8,000円ほどを出資していると。令和6年度につきましては200万円、前年度の令和5年度につきましては180万円でした。20万円アップしてございます。ちなみに今年度の令和7年度につきましては10万円アップして、210万円でございます。

なかなかその地域だけでは運営が非常に厳しい状況になってございますので、今後につきましては、地域交通のデマンドバスというか将来デマンドバスの1つとして、そちらの統合も視野に入れながら考えているところでございます。

もう2つ目の男女共同参画推進事業の令和6年度の事業というところでございます。こちらの事業につきましては、大きく6つほど開催してございます。

まず1つ目は、LGBTへの理解というところで、参加者は14名。2つ目に男女共同についてというところで、参加者が10名。こちらはアンコンシャスバイアスといって、無意識の思い込み、例えば男性であれば仕事とか女性は家庭を守るとか、何かそういった無意識に思い込まれたような考えについてのご講演内容です。3つ目に女性の社会進出ということで、参加者は16名。4つ目に男性の家事育児への参加ということで13名、うち2名が男性の参加者でございました。あともう1つは落語で学ぶ男女共同参画社会ということで、落語を、男女共同参画と

いうのは非常に分かりにくいということもありまして、取り組むきっかけというか、その言葉の理解から気軽に落語から学ぶという内容で、15名が参加しております。あともう1つが鳴峰中学校の学生を対象にしました講演でございます。こちらは中学生が178人参加しまして、教員、PTAのほうで20名の参加でございます。

また、男女共同参画推進の講座につきましては、令和7年度につきましては4回ほど予定してございまして、1回目は9月6日に既に終了してございます。こちらは整理収納を通じた家庭における男女共同参画というところで、こちらは16名の参加でした。うち2人がお子様で親子連れというような参加人数でございまして、あと第2回目は10月以降、家族間のコミュニケーション、あと3回目が11月にセルフマネジメント、第4回目が12月6日に多様な視点で取り組む防災ということで、防災の観点、防災の中でも男女共同の取組が必要だというような講演の内容になってございます。たくさん参加していただけるにこしたことはないんですが、なかなか興味、関心というのが難しいところもございまして、周知の方法を回覧とかホームページとかいろいろやってはいるんですが、こちらからも発信をいろいろ考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 最初に地域活性化事業についてなんですが、本当に年々補助金を増やしているのが目に見えているし、耳にも聞こえているんですが、これは大変だと思っております。でも、この地域活性化バスに寄せる期待というのは、住民の期待がすごくあってとても便利だって、病院に行くにしても買物行くにしても、町に行く足がない自分たちにとっても便利だしずっと利用したいという声がありますので、この補助金を上げてでももうちょっと運営していけるようにしていただきたいなという希望をお伝えしておきたいと思います。

それから、男女共同参画についての道は果てしないなと思いながら聞いていたんですが、どれも現代社会の課題だと思いますけれども、職員がこういったことについて学ぶ機会というのはないのでしょうか。職員も一緒に学ぶ機会があるといいなということと、それから成人式に男女共同社会に関するポケットティッシュを配布するのも1つなんですが、プラスしてこういった講演を取り入れるというのもあっていいのかなと思います、いかがでしょうか。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼企画政策係長。

○企画財政課課長補佐兼企画政策係長（後藤崇史君） 課長補佐兼企画政策係長です。

地域活性化協議会のほうと協議をしながら、運営できる範囲内で補助を上げていきたいと思

うんですが、何分、お子さん、子どもが減ってくるとか、地域の集落自体で運営が難しくなってきたというときがいずれ来るといいますので、それまでは協議会のほうと連絡を密にしながら進めていきたいなという考えでございます。

もう1つは職員研修に男女共同参画の取組という話ですが、今回令和7年度の研修に関しましても、課長会議等で職員の方も参加してくださいというような呼びかけをさせていただきます。なお9月のときは、やはり一般の方も参加するということがございまして、遠慮したのかなというのがありますが、職員の研修につきましては、また総務課とかと協議しながらしていきたいと思います。

成人式でのポケットティッシュの啓発というお話がございました。なかなか成人式で講演会も入れるというのは、式典の中での取組になると思いますので、そちらの実行委員会と話さないといけないのかなということがございます。また成人式の意味合い上、こちらの男女共同参画の内容がふさわしいかというのが少しちょっと協議しないといけないところでありますので、引き続き啓発のほうに力を入れてまいりたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 職員の研修については総務課とも検討しながらというお話ありましたので、ぜひ総務課のほうでも検討していただくようお願いしたいと思います。というのも、職員が率先してこういったことに理解を示して取り組んでいるということは、住民のやっぱり住民も一緒になってやっていこうという気持ちを醸成するのに非常に効果があるかと思うので、ぜひこれは検討すべきだと思います。よろしくお願いします。

成人式についても同様なんですけど、中学校でもこういった内容の講演を取り入れているようですが、今や制服も男女あまり差がないようにとかというふうに、具体的なことは進められていますが、意識を醸成していくという時期に入っているかと思うので、若いうちからいろいろなことを学んでいただける機会を町はつくっていく必要があるかなと思います。

それから、最後に男女共同参画町民アンケートを実施したという記述があります。回答数が494通で30%の回答率であるとあるんですが、回答をした中のこれについては、傾向として年代がここに16歳以上の町民とありますが、これは回答した人たちの年代で一番多かった年代というのは何歳代だったのか。その内容について、ちょっと、今、記憶としてありましたらお知らせいただければ、一、二個ほど紹介していただければ幸いなんですけど、以上です。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼企画政策係長。

○企画財政課課長補佐兼企画政策係長（後藤崇史君） 課長補佐兼企画政策係長です。

まずアンケートにつきましては、今回、総合計画のアンケート、あと男女共同参画のアンケート、公共交通のアンケートと分かれて報告はしてございますが、実際住民の方に何回も同じアンケートを取らせる不便をかけないために、総合計画の1,600人対象のアンケートで1回で抽出してございます。その中で、この男女共同参画に関する項目の部分をそこから抜き出して、回答を取りまとめているというのが、ひとつご理解いただきたいと思います。

その中で、やはり60代以上というか、回答者は多いということなんですが、男女共同参画に関しましては、若い世代の部分も必要な情報ですので、満遍なく取っているところでございます。その中で特徴、どのような傾向があったかというようなお話だったと思うんですが、まず平等感とか社会通念上平等感はあるのかというようなところで、女性30代の6割近くがどちらかといえば不平等を感じてございます。男性の30代の8割近くがほぼ平等、どちらかといえば平等といった、ここに男女で見えてくる背景がちょっと異なる可能性があるのではないかとアンケートから見えているところでございます。

また性別固定役割意識というところで、例えば男は外で働き、女は家庭を守るべきというような考え方についてのご質問もございます。こちらはどちらかといえばそう思わない、そう思わないが7割を超えてございます。そう思う、どちらかといえばそう思うが2割未満というところで、これは性別固定役割意識は縮小傾向になってきているというような結果ではないかということでございます。

また、仕事をしていく上での重荷になるようなことはありますかというのを質問してございます。こちらは、自分の健康、体が一番、健康や体力といったものが一番多くて、全体の35.2%を占めてございます。また家事の負担とか親の介護とか、そういったものが多いということで、自身の健康や介護、家事負担の両立が課題になっているというような傾向がございました。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） 時間が限られているので手短に行います。

今、課長の説明に交付税の算定根拠となる基礎数値や測定係数の減というお話ですが、この辺もう少し簡単で結構ですので、どの辺が変わったとかその辺まず1点。

もう1点は、決算書の32ページに光ケーブル貸付収入2,200万円ほどありますが、こういった内容なのか。

3点目、成果表の71ページのクラウドシステムのところで、富谷市が離脱して村田町と加美

町というコメントがあります。このクラウドシステムについてもちょっと説明いただければと思います。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼財政係長。

○企画財政課主幹兼財政係長（塩田大輔君） 財政係長です。

普通交付税の算定についてご説明させていただきたいと思います。前年度比で減となった主な要因というところでございますが、個別算定需要額というところがまずは減少したことに加えまして、地方債の抑制の取組ということで、行財政改革行っておるんですけれども、その成果というような形になるんですが、公債費における基準財政需要額の減少が主な要因としてあります。

具体的な例といたしましては、下水道費用におきまして、上下水道課のほうで借入れしている起債額増加によりまして、借入額が増加したことによりまして、基準財政需要額が減額したのが1点、これが額でいうと6,500万円ほど費用として減ったというような形になっております。さらには、臨時財政対策債等公債費の一部償還終了に伴いまして、公債費の基準財政需要額が、額にしますと1,500万円ほど減額になったといったところで、収入はほぼそんなに変わらないんですけれども、基準財政需要額のほうが減ったということで、令和5年度との対比で減額したというような中身となっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼デジタル化推進係長。

○企画財政課主幹兼デジタル化推進係長（佐々木裕次郎君） デジタル化推進係長でございます。

まず光ケーブルの貸付使用料のほうで回答いたします。こちらの金額が平成22年でしたかね、小野田、宮崎、上多田川方面の光ファイバーケーブルを町のほうで整備しまして、NTTのほうに貸出しを行いました。これIRU契約という契約になるんですけれども、かかった費用を全てペイできるような契約になっておりますので、かかった分だけ請求しているという形になります。

もう1点のほう、クラウドシステムのほうですが、令和7年に富谷市さんが離脱をしてしまったんですが、その前までは村田町さんと富谷市さんが先行して、いわゆる基幹系のクラウド、宮城県クラウドという表現を用いておりましたが、共同でクラウドシステムで運用して住基ですとか、それこそ保健情報ですとか、そちらのほう安く使おうという試みでスタートしているものでございます。富谷市さんと村田町さんが運用を始めて2年後に加美町が合流するような形で現在まで運用しておったんですけれども、富谷市さんのほうが違うベンダーさんに切り替

える。これもガバメントクラウド、加美町も後ほどやらないといけないものにはなるんですけども、先行して乗換えをして離脱していったという形になります。ただし金額のほうにつきましては、あくまでベンダーさんと対町、市との契約になりますので、金額のほうが増えるといったことは一切ございません。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて企画財政課の所管する決算認定質疑を終わります。

それでは担当課の入替えのため、暫時休憩をいたします。

なお委員の皆さんにおかれましては、そのままお待ち願います。

午前10時55分 休憩

午前10時57分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、行政経営推進課及び新庁舎整備室の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。行政経営推進課長兼新庁舎整備室長。

○行政経営推進課長兼新庁舎整備室長（庄司一彦君） 行政経営推進課兼新庁舎整備室でございます。本日3名で説明に参りました。よろしくお願いいたします。

それでは概要説明に入ります。25ページになります。

行政経営推進課歳入。県支出金総務費委託金1節総務管理委託金の移譲事務経由処理交付金におきまして、前年度対比で24万5,000円減の170万円となっております。要因につきましては、移譲を受けている事務の処理件数の実績によって、毎年増減するという性質のものでございます。

歳出。総務費一般管理費1細目一般管理費の業務効率化事業において、前年度と同額の38万3,000円となっております。内容は、事務操作の自動化を図るためのデジタルツール使用の費用となっております。

2款総務費財産管理費1細目財産管理費公共施設等最適化事業の決算額は、前年度対比で69万9,000円減の110万7,000円となっております。主な内容としましては、測量設計委託料105万9,000円の減、公共施設保全マネジメントシステム研修旅費17万7,000円の増などによるもので

ございます。なお、昨年度まで所管しておりましたふるさと納税関連につきましては、商工観光課の決算の対応となりますので、あらかじめご承知願いたいと思います。

続きまして、新庁舎整備室でございます。

新庁舎整備室の予算につきましては、令和5年度予算の配置がありませんので、前年度との比較がございませんので、この件につきましてもあらかじめご承知願いたいと思います。

歳入19款基金繰入金庁舎整備繰入金1節庁舎整備基金繰入金において、令和6年度で3,410万円の歳入となっております。

歳出2款総務費庁舎建設費1節庁舎建設費新庁舎整備事業において、令和6年度で3,741万7,000円の支出となっております。主な内容につきましては、会計年度任用職員報酬及び新庁舎建設委員報酬などに229万7,000円。そして基本設計委託料で、先ほどの繰入金同額の3,410万円となっております。

以上で説明を終わります。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。
9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） ふるさと納税を期待していた方がいたので、またそれは別として確認なんですけれども、ここでデジタルツールの使用の費用ということで、企画財政課（行政経営推進課）となっているRPAについてお伺いしてよろしいんですか。大丈夫ですか。その内容についてお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長です。どうぞよろしくお願いします。

ただいま木村委員よりご質問いただきましたRPAの運用事業でございます。昨年度企画財政課のほうの所管事業ということでしたが、業務効率化の観点から、今年度、行政経営推進課の所管業務として移動してきたものでございます。昨年度の事業の成果等の内容につきましては成果表の82ページのほうで掲載をしている内容となっております。

まずRPAにつきましては、パソコン操作を記憶させまして自動的に動作をさせるためのソフトウェア、業務の自動化をするためのシステムというふうに認識をいただければと思います。現在対象事業といたしまして、2課3事業ですね、心身障害者受給者支援事業の入力業務、また所得照会等の業務ということで実施をしているところでございます。こちらの業務につきましては、年間通しまして230時間ほどの業務時間のまず削減が図られているというような

ことで、各担当課におきましては当然業務効率化、当然その業務がシステムで走らせている際には、その他の業務に注力して業務を推進できるという点がございますので、1年間を通じましてそういった業務効率化が図られているという業務でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） なかなか理解できないのであれですけども、仕事をしているものを記憶するんですか。そのシステムのほうで記憶して、ほかの仕事をやりながらそっちはそっちで自動的に動くというふうに考えていいんですか。ちょっともう少し素人に優しくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長です。

先ほどRPAの実際のどういった業務の動きになっているかということになると思います。が、実際に我々職員がパソコン等に直接キーボードを使って入力するという作業、いろいろなどんな業務、どんな課でもそういった入力業務等あるところでございますが、それを自動的にそのシステム内で、そのRPAのソフトウェアを使って自動で転記している。画面上はキーボードは触ってはいないんですが、情報が自動でしっかり動いて展開して行って処理を完了させていただくという業務になります。ですので簡単に言いますと、人の手を使わずに入力操作等処理が自動で行われている。

そのためには、先ほど言ったどういう動きをするか、そのパソコン上の操作の動きを記憶させる必要がございます。それはちょっとプログラミング的な要素や知識も必要な業務となっております。特に実際には先ほど一番この中でも、業務件数上大変多いものが心身障害者の受給者支援事業業務で毎月の業務としてあるわけなんですけれども、やはり定型的で反復性のあるような高い業務につきましては、非常に効果を発揮していただく。ただ数件程度の処理内容でありますとか、ちょっと複雑にAを選択したらBCDとか複雑に選択肢があって、やっぱり我々人間というか職員が判断しなければならないような業務にあまり向かないという性質もあるものでございまして、現状としてはそういったシステムであるということでご認識いただければと思います。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） ありがとうございます。大体分かりました。今、ここで対象事業ということで3つ挙がっているんですが、これ以外に今後こういったものという計画がありました

ら、紹介いただきたいんですが。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長です。

R P Aの今後の対象事業等の方向性ということでの質問かと思います。これまでもほかの業務でのR P Aの運用というのでも検討してきた経過がございました。ただ、先ほどお伝えしたとおり、やはり実際に対象件数が少なかったりすることで、逆に直接職員が手でやったほうが早く作業が進むなどということで、1回導入をしましたが、今は直接的な作業になっているものなどもございます。今後の検討の方向性といましては、ただR P Aをただ単に導入するところだけではなく業務改善につながっていかないのかなというところもございまして、やはり業務におけます一連の流れを根本的に見直していくという業務改善の中で、どの部分でR P Aが活用できるかなどという視点で取り組む必要があるのかなと思います。

今後、今、庁舎の中でもペーパーレス化でありましたり、やはり電子決裁等の取組というのが今後進んでいくところで、いろいろところでスモールスタート的にスタートをこれからしていこうという流れがございしますので、その中でR P Aを導入できる部分があるのではないかなという検討を、一緒にさせていただければなというところを考えているところでございます。取り急ぎすぐにこの業務をR P Aを活用しまして、業務効率につなげていこうというようなところでの対象事業、現時点では明確にお伝えできるところはないというところでございますが、どうぞよろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） 1点だけお伺いします。

成果に関する説明書の83ページですね、決算書ですと63ページの部分になります。ここの中で国交省事業のB I M M Sを活用した管理というところで、当事業の成果として縮減された公共施設は田代キャンプ場1施設にとどまりということを書いておりまして、達成度が30%未満と。目標は2,000平米となっているんですけども、まずもってこのB I M M Sを活用したものとして上がってくるものといいますか、目安となるものというのはどういうふうに出てきているものなのか。

また、達成度が非常に30%未満で非常に低いというところで、今年度は田代キャンプ場だけということでしたが、これに基づく削減、縮減計画、あるいはこのダウンサイジングの考え方については決算期でどのような考えなのか、お願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長です。

先ほど高橋委員よりご質問のありました、2点の内容についてご回答させていただきます。

まずB I MMSですね、この保全マネジメントシステムの運用と活用の状況というところでお伝えをさせていただきたいと思います。まずこちらのシステムであります、令和6年度からシステムの改修等がございまして、様々な機能で活用できるというようなシステムになってございます。主立った機能になりますが、土地や建物の情報、または工事修繕の履歴でありますとか、当然クレームや不具合、または施設にかかります維持管理コスト等の管理、また中長期的な改修などのシミュレーションなどもできるシステムでございます。ただ、これまでなかなか維持管理に関するコスト等の情報等の集約だけというところで、なかなか活用がまずできていなかったという状況がございまして、こちらの先ほど質問にはちょっとないところなんです、研修等にも行かせていただいたというところございます。

まず現時点では、このB I MMS、こういった活用ができるのかということもいろいろ職員3名で伺ってきたところございまして、今年度公共施設等の管理計画の改定業務をただいま発注をしまして進めているところでございます。まずは発注した計画の内容と合わせまして、まず施設のデータをどうやって一元化して管理をしていくのかということも内部でも検討しているところでございます。システムとしてはもう様々な機能がありますので、ただそれを各施設管理課と使い切ることは大変ちょっと難しいかなと思ってまして、どれが必要な機能でそれを公共施設の管理計画の施設の統廃合等の計画と合わせて使っていけるのかというのを、現在改めて担当レベルで検討しているところでございます。

2点目の公共施設の令和6年度に除却譲渡された施設が田代キャンプ場のみですとなっているところでございます。こちら成果の目標といたしまして、2,000平米ほどの1年度の削減目標等を掲げさせていただいてございます。こちらにつきましては、公共施設の管理計画の計画のさらに下位の計画に個別施設計画なるものがございます。こちらのほうでは40年の計画期間におきまして、施設数、延べ床面積ともに4割を削減していきましょうという現計画がございします。その計画の中での1期10年と見ているところでございますが、1期10年の計画期間の中で1割をしっかりと削減していきましょうというのが、1つの計画の目安となっております。1割削減ですと約2万2,300平米ほど、26施設ほど削減していくのを10年の計画となっております。この2,000平米の目標は1年間の目標として平均を出しているところでございますが、現

計画におきましては、10年間の中での先ほどの2万2,000平米ほどを計画的にしっかりとこの年度に廃止、除却等をしていこうというのは明確にうたわれていない実態もございます。

そういった意味で今回の計画の総合計画の管理計画の改定作業におきまして、しっかりその第2期計画にこれから令和9年度からスタートしていきますので、どの年度にこういった施設をしっかり集約、統廃合を進めていくかと明確にしていくというところに作業をシフトしていきたいと考えておりまして、現状は星1つというような内容になっておりますが、しっかりこの令和6年度にこの施設とこの施設をこの2,000平米になるように削減しますという明確な目標が示せていない結果がこういったところにつながっているということで、ご理解いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） ありがとうございます。この令和6年度の部分で今、ただいま説明いただいたこの数値的なものかなというところで、達成度というところの話は分かりました。しかしながら我々議会としまして、こういった今後統廃合あるいは除却をしなきゃいけないものというの、なかなか我々のほうにも伝わってこないような状況があると思います。やはり使用者、例えば近隣住民の方々というのもいらっしゃいますので、この令和6年度で恐らく計画をされたと思いますので、早めに我々議会のほうともそういった今後の除却、あるいは統廃合、この辺の部分は何らかの形で進めていく必要があるのかなと思っております。その辺の対策として、現在考えていることがございましたらお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○行政経営推進課長兼新庁舎整備室長（庄司一彦君） 行政経営推進課長でございます。

今年度と来年度で改定作業というものを進めております。これもプロポーザル方式によりまして事業者を選定しまして、今後いろいろ作業を進めていくことになります。その過程過程で全体的な施設の見直しというものを、いろいろ内部でもいろいろ協議しながら、あるいは新庁舎を含めて支所機能、あるいは学校の様々な統合等々も今後考えられます。そういったことも全体的に見ながら、令和8年度中に計画を策定するというところで進めております。その折々できちんと議会の皆様にも、あるいは地域の皆様、特に小野田、宮崎もそうです、新庁舎につきましては全体的になりますし、そういったことも含めながら説明の場というものをさせていただきたいと考えております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 質疑ございませんか。3番今野委員。

○3番（今野清人君） 3番です。簡単にお聞きいたします。成果表の83ページ、先ほども出ました田代キャンプ場ということなんですけれども、除却ということで管理棟、炊事棟を除却したということなんですけれども、これはキャンプ場自体をもう運営していかないということ、もつと言えば管理棟、炊事棟はないですけれども、どうぞキャンプ場として勝手にテントを建ててそれは利用していきますよということなのか、それとももう田代キャンプ場というものの自体、もう町としてはないものとしたのか、その辺お願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長でございます。

先ほど今野委員からご質問ありました田代キャンプ場の、建物を除却したけれどもキャンプ場としての活用、今後はどうなのかというようなご質問かと思います。まずこの施設ですが教育委員会所管の実際に所管課は宮崎公民館と認識してございます。まず建物を取壊しをしましたが、まだ条例等はキャンプ場のままとなってございまして、大変すみません。今後の例えばキャンプできるスペースの貸出し等を行うのかとか、そういったところにつきましては、教育委員会のほうのところでご質問ということで、明日になると思いますが、そちらのほうでご確認をいただければと思います。申し訳ございません。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） よろしいですか。1番田中委員。

○1番（田中草太君） 短く質問します。同じく成果表の83ページなんですけれども、単年度2,000平米というのは年度で割ったという形だったんですけれども、計画全体の中での進捗パーセンテージでお答えいただけたら、実数とパーセンテージ、お答えいただければと思います。お願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼行財政改革推進係長。

○行政経営推進課課長補佐兼行財政改革推進係長（門間義則君） 課長補佐兼行財政改革推進係長です。

ただいま田中委員よりご質問のありました、現在の公共施設の計画におけます進捗状況の内容でございます。まず実際に除却または譲渡等、行った施設が令和6年度末で13施設、面積にしまして6,629.56平米ほどになりまして、計画の達成状況からいきますと、29.8%、約30%しか達成できていないという状況になります。

補足になりますが、さらに除却譲渡になりますので、建物を取り壊しましたり、または民間等を含めてお譲りしたというような内容であります。実際に学校も含めましてまた休止、ま

た条例等を廃止して、建物の行政目的がなくなった普通財産となって町が保有している建物も
ございます。そういったところの数字等でいきますと、24施設、2万3,638平米ほどで、こちら
の建物の面積でいきますと、約100%の状態。ただ、実際に建物は残っているというような状況
で、利活用も含めた建物の今後の方向性というのは明確にできていないというところになって
ございますので、そういったところも当然課題という部分で今後進めていかなきゃならないと
認識しております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めま
す。

これにて、行政経営推進課及び新庁舎整備室の所管する決算については質疑を終わります。

それでは担当課の入替えのため、暫時休憩をいたします。

なお、委員の皆様におかれましては、そのままお待ちください。

大変お疲れさまでした。

午前11時20分 休憩

午前11時22分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、上下水道課の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。上下水道課長。

○上下水道課長（塩田雅史君） 上下水道課でございます。本日6名で対応させていただきます。
よろしくお願いいたします。

初めに、本日ずっと雨が降ってしまして、漆沢ダムの貯水率81%になりました。安心して水
を使っていただけるような状況になっています。ただ、ちょっと雨が続いていますので、農家
の方にはなかなか厳しいものがあるのかなと思って心配しました。

それでは、令和6年度決算所管事業概要説明書、27ページ、28ページになります。よろしく
お願いいたします。

令和6年度より、下水道事業特別会計と浄化槽事業特別会計を同一会計下水道事業会計とし
て、地方公営企業法の財務規定を適用しております。このことにより、前年度決算額との比較
値は表記されておりませんので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

下水道事業会計収益的収入、収益的収入の決算額は10億97万3,000円となっております。すみ

ません。決算書393ページ、成果表627ページ……。

○委員長（三浦又英君） 課長に申し上げます。決算書と成果表のページは略してください。

○上下水道課長（塩田雅史君） 分かりました。予算額に比べ632万6,000円の増となっております。主な要因は消費税還付金の増加によるものです。

収益的支出、収益的支出の決算額は9億6,195万5,000円となっております。営業費用として、処理場費2億5,004万円、管渠費2,749万7,000円、浄化槽管理費4,289万8,000円、総係費6,648万8,000円、減価償却費5億3,171万9,000円、営業外費用として3,806万5,000円、特別損失として524万5,000円を支出しております。

資本的収入、資本的収入の決算額は5億3,442万7,000円となっております。予算額に比べ1億5,002万1,000円の減となっております。主な要因は企業債の借入れと国庫補助金の減少によるものです。出資金として一般会計より2,851万3,000円収入処理しております。

資本的支出、資本的支出の決算額は8億2,017万9,000円となっております。建設改良費として管渠建設費374万5,000円、処理場建設費2億2,716万5,000円、浄化槽建設費1,019万円、企業債償還金として5億7,907万8,000円を支出しております。

年度末償還残高は、公共下水道事業で28億4,548万5,000円、特定環境公共下水道事業で10億9,049万1,000円、特定地域生活排水処理施設事業で2億6,176万3,000円、合計41億9,773万9,000円となっております。

水道事業会計に入ります。

収益的収入、収益的収入の決算額は5億1,602万1,000円で、前年度対比1,920万5,000円の減となっております。主な要因としましては、給水収益の水道使用料で749万3,000円の減、受託工事収益において、受託工事の減少により871万1,000円の減、営業外収益の長期前受金戻入で415万6,000円の減、雑収入で344万1,000円の減となっております。

収益的支出、収益的支出の決算額は5億1,054万円で、前年度対比1,705万9,000円の減となっております。配水及び給水費の修繕料で560万6,000円の増、受託工事費の委託料で861万円の減、総係費の委託料で650万6,000円の減、原水及び浄水費の動力費で104万1,000円の増、受水費で320万5,000円の減、営業外費用の支払利息で137万5,000円の減、消費税で186万7,000円の減となっております。

資本的収入、資本的収入では、一般会計から旧簡易水道に係る元金償還分に対し301万7,000円を繰り入れしております。

資本的支出、資本的支出では、施設建設費で決算額が3,600万3,000円で、前年度対比20万

9,000円の増となっております。館山配水場配水管更新工事、漆沢浄水場制水弁更新工事ほか6件の工事を実施いたしました。配水設備費の決算額は2,210万1,000円で、前年度対比1,475万3,000円の減となっております。営業設備費の決算額は2,324万6,000円で、前年度対比2,308万9,000円の増となっています。加圧ポンプ付給水車の購入によるものです。

企業債償還金では、通常の償還金6,202万円を償還し、年度末償還残高は4億4,838万8,000円となっております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。

9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） 3点伺います。

まず1点目なんですが、下水道の企業会計になったということで、その意味といいますか、今後の要するに企業会計でどれだけ収入支出の状況とか割合を見ていきながら、要するに経営状況を判断しながらということになると思うんですが、そこで現在、一般会計からの補助金、繰入金が約4億5,000万円、あとは一般会計からの出資金が2,800万円ほどで約4億7,900万円入っております。これは今後少しずつ減らしていく傾向にあるのか、そのまま一般会計から繰入れせざるを得ないものなのか。今後の下水道のいろいろな整備の関係もあると思うんですが、それについてまず1点。

2点目なんですが、ちょっと細かいところで大変恐縮なんですが、決算書で393ページの営業外収益、営業外費用の数字が、成果表の624ページ、625ページとの数値の差があるんですが、というのは、成果表のほうは当年度決算額というのは税を抜いた金額だと理解しております。ただ、決算書の数字から税額を控除しても数値が合わないということをちょっと見つけました。この辺の確認が2点目です。

3点目は決算書の413ページ、水道事業費用の備考欄、413ページの支出の第1款水道事業費用の備考欄のうち、消費税というのはこれは下の営業費用の消費税と営業外費用の消費税を足したものになるのではないかとということを見つけたので、その辺の確認をさせていただきたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 副参事兼係長。

○上下水道課副参事兼建設係長兼施設管理係長（早坂伸家君） 副参事兼係長、お答えいたします。

まず1点目の企業会計にした意義という点でございますけれども、地方公営企業法の適用の

推進としまして、国のほうから令和6年4月までに、各自治体において人口3万人未満の市町は、令和6年4月までに下水道事業を公営企業会計移行することという要請がありまして、令和6年度から企業会計に移行したというような流れでございます。

今後の業務というか今年度企業会計に移行して初めての決算になりますので、前年度とちょっと比較もできないんですけれども、今後業務の遂行、経営成績だったり、財政状態の的確な把握とあと業績の評価をして、先ほど申し上げました繰入金、基準内と基準外があるんですけれども、基準外のほうを減らしていきながら、基準内の繰入金は交付いただいて、基準外のほうを減らしていった経営にしていきたいなと考えております。

以上です。

2点目の決算書393ページの決算報告書と成果表の624ページ、625ページの数字でございますよね。624ページ、625ページは先ほど木村委員からお話ありました税抜き金額で、決算書の393ページは、予算に対しての決算になりますので、税込み金額になるんですけれども、単純に仮受消費税、仮払消費税を引いた金額でもなくて、消費税の納付だったり還付だったり、そういった数字も少し絡んできたりしていますので、この決算書から引いたのが税抜きだという扱いではないということですかね。計算方法をちょっと表してみないとあれなんですけれども、以上のような形になります。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼総務係長。

○上下水道課課長補佐兼総務係長（佐藤嘉一君） 課長補佐兼総務係長です。よろしくお願いします。

私のほうからは、決算書の413ページ、収益的支出の支出項目の備考欄の消費税の関係なんですけれども、こちらは営業費用のほうにつきましては、内仮払消費税、下の欄が内納付消費税ということになっておりまして、こちらが一番上の営業費用のほうに記載する金額につきましては、内仮払消費税のほうになりますので、単純に上と下を足した金額とはならないようになっております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） ありがとうございます。それで再度下水道の、先ほどの消費税込みか込みでないかのところで、例えば決算書の393ページの備考欄にうち仮受消費税というところに、これ金額が入って決算額からこの備考欄の金額を引くと、その成果表の624、625ページのようになるのではないかなと思っているんですが、ここに空欄になっていますよね。決算書のほう

が仮受消費税云々というのは、ここは数字は入らなくていいものなのかどうか、その確認と、あと1点目質問した一般会計補助金の4億5,000万円、令和6年度は補助しているわけですが、これも、これ先ほどお話しいただいたように、基準外を減らしていければということなんです、減らせるような見通しといたしますか、考え方はあるのかどうか、その辺見通しで結構です。お願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 主査。

○上下水道課主査（大場利之君） 主査です。

1問目の消費税の関係ですが、仮払消費税、仮受消費税はあくまでも預り金とかそういった形で消費税が出たものなんです、この営業外費用が合わないという話だと思うんですが、明細書、決算書の404ページ、お開きいただきますと、営業外費用の雑支出502万2,260円というこの中に特定収入に関わる消費税というのがここに入っておりまして、これが予算を経由しない費用ということになりますので、その分で差額が生じているという状態になっております。よろしくをお願いします。

○委員長（三浦又英君） 副参事兼係長。

○上下水道課副参事兼建設係長兼施設管理係長（早坂伸家君） 副参事兼係長、お答え申し上げます。

基準外の繰入れを減らしていけるのかということなんですけれども、今年度経営戦略というのも10年間の経営戦略を、今現在策定中でございまして、基準外の繰入れをできるだけ減らして元金とかそういった償還金も減っていく以上、設備投資にもよるんですけれども、元金償還も減っていくということの計画を、今、作成中でございますので、よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて、上下水道課の所管する決算については、質疑を終わります。

それでは、担当課の入替えのため暫時休憩をいたします。

なお、委員におかれましてはそのままお待ち願います。お疲れさまでした。

午前11時39分 休憩

午前11時40分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開をいたします。

次に、議会事務局の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。議会事務局長。

○議会事務局長（青木成義君） 議会事務局です。本日は2名で説明をさせていただきます。よろしくをお願いします。

それでは事業概要を説明させていただきます。説明書は29ページになります。

歳入21款5項1目1節雑入でございます。議会事務局雑入は、公文書開示手数料及び議員会資料印刷代で、約3,000円となっております。

続いて歳出です。

1款1項1目議会費でございます。議会費の決算状況は、総額1億3,735万6,000円で、前年度対比約223万円増額となりました。主なものは職員手当で151万9,000円、旅費で95万9,000円、使用料及び賃借料で114万5,000円の増となっております。職員手当につきましては、人事院勧告に伴う給与改定及び人事異動による増、旅費につきましては、議員視察研修などによる費用弁償の増、使用料及び賃借料につきましては、令和5年12月に更新しました議場システム機器の賃借料の増加によるものです。

2款6項1目監査委員費でございます。監査委員費の決算状況は、総額170万円で前年度とほぼ同額となっております。

事業概要説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて、議会事務局の所管する決算については質疑を終わります。

ここで昼食のため、暫時休憩をいたします。13時まで。

午前11時43分 休憩

午後 1時00分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、農業委員会事務局の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（佐藤登志子君） 農業委員会事務局です。本日の出席職員は3名です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは農業委員会事務局令和6年度決算所管事業の概要について、ご説明を申し上げます。資料は30ページをお開き願います。

一般会計歳入から、14款使用料及び手数料 2 項手数料 3 目農林水産業手数料、農業関係証明手数料 3 万9,000円については、耕作証明書など198件を交付した手数料収入です。前年度対比では4,000円の増となっております。

次に、16款県支出金 2 項県補助金 4 目農林水産業費県補助金、農業委員会の県補助金は、合計878万8,000円で前年度対比455万8,000円の増となっております。要因といたしましては、機構集積支援事業補助金が23万円で、前年度対比15万2,000円の減となっておりますが、委員上乗せ報酬条例を制定し、令和 6 年度より新規で申請した農地利用最適化交付金80万5,000円、令和 6 年度単年事業として、地域計画策定に伴う目標地図の作成に係る地域計画策定推進緊急対策事業補助金390万9,000円の増によるものです。

次に、21款諸収入 5 項雑入 1 目雑入です。農業委員会の雑入は、農業者年金業務委託手数料124万7,000円で、前年度対比 6 万6,000円の増となっております。要因といたしましては、農業者年金受給者数や事務処理件数が毎年変動することによるものです。

次に歳出です。

6 款農林水産業費 1 項農業費 1 目農業委員会費、農業委員会費の決算額は5,205万8,000円で、前年度対比721万4,000円の増となっております。増額の主なものは、地域計画策定に伴う目標地図作成業務委託料が481万円、職員及び会計年度任用職員の給与、職員手当、共済費等の人件費111万円、農業委員会サポートシステムのデータ更新に伴う農家台帳システムアップロードデータ作成業務委託料47万5,000円、農業委員等の上乗せ報酬30万円の増などによるものです。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。

1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） 成果説明書の118ページ、地域計画についてなんですけれども、こちらはこちらで質問してもいいですか、農政課、農林、じゃあ改めます。

○委員長（三浦又英君） 質疑ございませんか。3 番今野委員。

○3 番（今野清人君） 3 番です。成果表550ページ、決算書142ページとなります。この中で農業委員、そして農地利用最適化推進委員という部分出ております。現在、農業委員、そして農地利用最適化推進委員、こちらの定員というものはどうなっているのか教えていただきたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 局長。

○農業委員会事務局長（佐藤登志子君） お答えいたします。

農業委員の定数につきましては15名、16名です、失礼いたしました。農地利用最適化推進委員は6名の定数となっております。

○委員長（三浦又英君） 3番今野委員。

○3番（今野清人君） 農業委員のほうも任期というものがあって、任期替えというものがあるんだと思います。その中でお聞きする中では、なかなかこの成り手の確保が難しいということをよく聞いております。この部分で今回16名、そして推進委員のほうも6名ということで、定員内定員マックスで収まっているという、今、ご答弁でございました。この辺やはり私も農業者の1人として言わせていただければ、農業委員さんというのは本当に一番身近にいて地域のことをよく分かっている皆さんだと理解をしているわけであります。今後ともこの定員割れを起こさないようにしていただいて、地域の農業振興のために尽くしていただければと思います。

私からは以上です。答弁は要りません。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） 同じく成果表550ページです。農地法の関係で今回4条許可が1件、5条許可20件ということでありますけれども、近年の4条及び5条許可の傾向と、地域性として3地区、中新田、小野田、宮崎、この3地区の傾向、昨年度の傾向がありましたらお知らせいただきたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼農地係長。

○農業委員会主幹兼農地係長（畠山明大君） お答えします。

最近の傾向といいますと、やはり多いのが中新田地区の市街区域の中の田んぼのところを造成して宅地にするというのが、近年といいますとここ数年かなり多くなっているような状況があります。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） すみません、ソフトな感じで答弁いただいたんですけども、今の5条許可の関係だと思うんですけども、そこの5条許可に関するものの原因といいますか、もちろん許可制度によつての、今、説明があって農地から宅地へというところだと思うんですけども、これの主たる原因といいますか、その辺がもしお分かりでしたらその辺の傾向もお願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼農地係長。

○農業委員会主幹兼農地係長（畠山明大君） お答えします。

すみません。農業委員会としましては、農地を農地以外のものにするに当たって、それを審査して許可を出しているという状況で、ただ来たものに対して許可を出しているという状況ではあるんですけれども、その中で傾向というか、こちらでちょっと判断はしかねるのかなと思われま、すみません。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） すみません。分かりました。理由までは分からないということで、しからば先ほど多いのは中新田、恐らく中新田が多いだろうなと思うんですけれども、割合的に。もし分かれば中新田、宮崎、小野田、各地域でこの点になる5条許可の状況についてお知らせください。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼農地係長。

○農業委員会主幹兼農地係長（畠山明大君） すみません。地区別でちょっと今、手元に資料がないんですけれども、感覚的といいますか、宅地造成の部分に関しましては、正直宮崎、小野田はほぼないような状況です。ですから9割方は中新田という形になります。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 次、9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） 成果表の550ページの農地利用状況調査ということで調査されている、この調査結果で前年比マイナス幾らと書いてありまして、この辺のことと、あと農地利用意向調査の行った結果といいますか、概略で結構なんですけど、こういったような状況だったのか、お願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼農地係長。

○農業委員会主幹兼農地係長（畠山明大君） お答えします。

まずは成果表の549ページのほうですかね、正確549ページのほう、ごめんなさい、50ページになりますけれども、そちらの状況調査の結果ですね、合計でマイナス4.9ヘクタールとなっておりますけれども、実際のところこの数字に関しましては、その前年令和5年度の調査面積と令和6年度の調査面積を比較したものでありまして、実際この減っているという状況ですけれども、実際のところ荒廃農地、遊休農地が解消された部分もあるんですけれども、こちらの多くは荒廃農地の部分で、もう農地以外のものになっているような状況のものに関しましては、非農地判断というものを行っております。その非農地判断の結果、農地面積が減って、イコール荒廃農地の面積も減ったというのが一番大きな理由になっております。

それと利用意向調査の結果ですけれども、昨年は244名に対して農地の筆数としましては480

筆を調査しております。農地を貸したい、売りたいという方に関しましては17.3%、自ら耕作管理するという方に関しましては3.5%、非農地にしたいという方に関しては54.4%という形になっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） その意向調査の人数というのはこれ244人というのは、これで全員というわけじゃなくて、ピックアップしてということで選んでいる人数なんですか。その辺お願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼農地係長。

○農業委員会主幹兼農地係長（畠山明大君） お答えします。

先ほど農地利用状況調査、荒廃農地、遊休農地に対して行ったものに対して、その方の中で利用意向調査をしている形になりますので、農地は遊休農地、荒廃農地の所有者に対して行っているという形で、その所有者が244名いるという形になります。

以上です。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑ございませんか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて、農業委員会事務局の所管する決算については、質疑を終わります。

それでは、担当課の入替えのため暫時休憩をいたします。

なお、委員の皆様におかれましては、そのままお待ち願います。

農業委員会、どうもご苦労さまでした。

午後1時12分 休憩

午後1時14分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、農林課、農業振興対策室及び森林整備対策室の決算審査を行います。

審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。まず農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 本日、農林課、農業振興対策室、森林整備対策室、9名出席しております。よろしくお願いいたします。

それでは私から、農林課の決算所管事業の概要について説明をさせていただきます。

資料の31ページ、お願いいたします。

まず歳入でございます。

13款 1 項 3 目農林水産業費負担金です。1 節の農業費負担金は、前年度対比で81万6,000円減の966万円となっております。減の主な要因は、中嶋上高城地区圃場整備事業負担金152万9,000円の増となりましたが、二ツ石ダム管理用道路維持管理負担金154万1,000円の減、農業用施設災害復旧工事負担金80万4,000円の減などによるものです。

続きまして、14款 1 項 3 目農林水産業使用料です。1 節の農村婦人の家使用料は、前年度対比で7,000円減の14万円となっております。また、2 節の菓菜農産研修施設使用料は、前年度対比で2万円減の87万3,000円となっております。

続きまして、15款 2 項 3 目衛生費国庫補助金です。2 節の環境衛生費補助金は前年度対比で1,221万4,000円増の5,122万2,000円となっております。増の主な要因は、利用自粛牧草農地還元事業及び圏域外処理事業などによるものです。

続きまして、16款 2 項 4 目農林水産業費県補助金です。1 節の農業費補助金のうち、農林課関連は前年度対比で1,431万9,000円減の1億1,056万6,000円となっております。減の主な要因は、農山漁村地域整備交付金399万6,000円の増、地域計画策定推進緊急対策事業補助金312万5,000円の増などとなりましたが、農業経営高度化支援事業補助金1,550万円の減や農業次世代人材投資事業補助金330万7,000円の減、農道集落道整備事業補助金300万円の減などによるものです。

続きまして、16款 2 項 8 目災害復旧費県補助金です。1 節の農林水産施設災害復旧費補助金は、前年度対比で695万円の減となっております。減の主な要因は、災害復旧事業が完了したことによるものです。

続きまして、19款 1 項 4 目農業振興基金繰入金です。農業振興基金繰入金は、農業振興地域整備計画見直し業務への充当のほか、産業振興基金に統合するため、全額を繰入れしたものです。

続きまして、19款 1 項23目ふるさと水と土保全基金繰入金です。ふるさと水と土保全基金は、産業振興基金に統合するため、全額を繰入れしたものです。

続きまして、32ページをお開き願います。

21款 3 項 1 目家畜導入資金貸付金収入です。家畜導入資金貸付金収入は、返済計画に基づく納入がありませんでした。

21款 4 項 1 目農地中間管理受託事業収入です。1 節の農地中間管理受託事業収入は、農業委員会所管の農地中間管理事業の受託事業収入です。

続きまして、21款5項1目雑入です。1節の雑収入の農林課関連は、前年度対比で187万円減の256万8,000円となっております。減の主な要因は、農林産物直売施設使用料40万円の増となりましたが、Jークレジット譲渡金213万7,000円の減などによるものです。

続きまして、歳出でございます。

2款1項18目重点支援地方交付金事業費でございます。細目1の雇用の維持、事業の継続対策費のうち、農林課関連は2,314万5,000円で、配合飼料価格の高騰による事業継続支援として、畜産農家へ支援金を交付しました。

続きまして、6款1項2目農業総務費です。農業総務費の決算額は1億9,365万2,000円で、前年度対比1億989万4,000円の増となっております。増の主な要因は、職員手当と共済費が減となりましたが、基金の統合に伴う産業振興基金への積立金によるものです。

続きまして、6款1項3目農業振興費です。農業振興費の決算額は5,873万5,000円で、前年度対比470万2,000円の増となっております。細目1の農業振興費は、前年度対比633万1,000円の減となっております。減の主な要因は、地域計画策定支援業務委託料161万4,000円の増や新規就農者育成総合対策補助金75万円の増などとなりましたが、農業振興地域整備計画見直し業務委託料335万6,000円の減や農業次世代人材投資事業補助金330万7,000円の減などによるものです。

細目2の園芸振興費は、前年度対比417万7,000円の増となっております。増の主な要因は、県青果物価格安定総合保証協会負担金が135万1,000円の減となりましたが、園芸特産重点強化整備事業補助金213万1,000円の増や、山の幸振興総合対策事業補助金312万2,000円の増などによるものです。

細目3の鳥獣被害対策事業費は、前年度対比25万6,000円の増となっております。増の主な要因は、鳥獣害防止総合支援事業補助金73万2,000円の増や、有害鳥獣解体処理施設建設に係る委託料の増などによるものです。

続きまして、6款1項4目畜産業費です。畜産業費の決算額は2,791万6,000円で、前年度対比752万円の増となっております。増の主な要因は、町営放牧場の施設修繕工事113万3,000円の減となりましたが、家畜防疫対策助成事業補助金101万9,000円の増や、土づくりセンターの施設修繕工事632万4,000円の増などによるものです。

続きまして、33ページをお願いいたします。

6款1項5目農地費です。農地費の決算額は1億5,747万5,000円で、前年度対比1,577万2,000円の増となっております。増の主な要因は、農地等整備事業の委託料137万円の減などと

なりましたが、県営土地改良事業の負担金916万7,000円の増や、県営圃場整備調査調整事業委託料652万3,000円の増などによるものです。

続きまして、6款1項6目農村整備費です。農村整備費の決算額は3,670万5,000円で、前年度対比1,204万1,000円の減となっております。細目1の農村整備費は、前年度対比1,943万3,000円の減となっております。減の主な要因は、集落基盤整備事業の委託料136万2,000円、工事請負費216万8,000円の増や豊かなふる里保全整備事業の委託料259万6,000円の増などとなりましたが、農業施設整備事業の工事請負費404万5,000円の減や、集落基盤整備事業の文化財調査に係る報酬475万円の減、豊かなふる里保全整備事業の工事請負費1,007万7,000円の減などによるものです。

細目2の農村整備費繰越明許は、集落基盤整備事業で、集落道鹿島神社線の整備に係る委託料及び工事請負費などとなっております。

続きまして、6款1項7目農地流動化対策費です。農地流動化対策費の決算額は216万円で、前年度対比2,000万6,000円の減となっております。減の主な要因は、東鹿原地区農業経営高度化支援事業補助金2,000万円の減などによるものです。

続きまして、6款1項8目農業経営確立対策費です。農業経営確立対策費のうち、農林課関連は211万6,000円で、みやぎの水田農業改革支援事業となっております。

続きまして、6款1項9目農業施設費です。農業施設費の決算額は742万5,000円で、前年度対比119万5,000円の増となっております。増の主な要因は、細目2の薬菜農場費の工事請負費81万4,000円の減となりましたが、細目8の薬菜農場費、繰越明許の工事請負費253万円の増などによるものです。

続きまして、6款1項10目山村振興対策事業費です。山村振興対策事業費の決算額は1,082万3,000円で、前年度対比229万9,000円の増となっております。増の主な要因は、細目1の中山間対策費の畑わさび生産支援事業補助金283万1,000円の増などによるものです。

続きまして、9款1項4目災害対策費です。細目2の東日本大震災災害対策費のうち、農林課関連は1億4,058万6,000円で、前年度対比5,590万1,000円の増となっております。増の主な要因は、利用自粛牧草等対策事業の委託料2,967万3,000円の増や、農業系放射性物質汚染廃棄物対策事業の委託料2,785万円の増などによるものです。

続きまして、11款1項1目農業施設災害復旧費です。農業施設災害復旧費の決算額は、1,402万円となっております。細目1の農業施設災害復旧費は、令和6年7月及び令和4年7月の豪雨により被災した農地農業用施設の災害復旧事業に係る委託料、工事請負費及び県営事業負担

金などとなっております。

細目3の農業施設災害復旧費事故繰越は、令和4年3月の地震により被災した農道の災害復旧事業となっております。

私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 次に、農業振興対策室長。

○農業振興対策室長（我孫子裕二君） 農業振興対策室長の我孫子でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは当室所管事業の概要についてご説明いたします。

概要説明書につきましては35ページをお開きください。

歳入でございます。

16款2項4目農林水産業費県補助金、決算書は29ページから30ページです。1節農業費補助金のうち、農業経営確立対策費に充当される当室所管の補助金は、経営所得安定対策等推進事業費補助金772万9,000円、畑地化促進事業費補助金190万7,000円、合わせて963万6,000円で前年度対比88万8,000円の増となっております。要因といたしましては、経営所得安定対策等推進事業費補助金が24万8,000円の減となりましたが、畑地化促進事業費補助金が113万6,000円の増となったことによるものです。

続きまして、歳出です。

6款1項8目農業経営確立対策費です。決算書156ページから158ページ、成果表は191ページから195ページになります。

農業経営確立対策費における当室所管の決算額は、前年度対比179万3,000円増の1,371万4,000円となっております。1節報酬、3節職員手当等及び8節旅費につきましては、会計年度任用職員に係る人件費で、前年度対比80万4,000円増の284万5,000円となっております。

18節負担金補助及び交付金につきましては、前年度対比98万8,000円増の1,083万6,000円となっております。町認定農業者連絡協議会補助金が皆増の10万円、経営所得安定対策等推進事業費補助金が24万8,000円減の772万9,000円、地域農業再生協議会事業補助金は、前年度と同額の110万円、土地改良区決済金補助金については、関係土地改良区から除外された面積が前年度から10ヘクタール以上増加したことに伴いまして、前年度比113万6,000円増の190万7,000円となっております。

令和6年産主食用米の作付面積は、宮城県から示された当年の生産の目安2,705ヘクタールを15ヘクタール超過したものの、前年実績を2ヘクタール上回る、2,720ヘクタールとなっております。

ます。また、経営所得安定対策等に係る交付金につきましては、前年度より1,424万3,000円減の12億9,910万円が農家の皆様に交付されております。

私からの説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 次に、森林整備対策室長ですが、決算書及び成果表のページ数は除いて説明をお願いします。それでは森林整備対策室長。

○森林整備対策室長（後藤 勉君） 森林整備対策室長の後藤でございます。よろしくお願いいたします。

それでは当室の所管事業の概要について、ご説明させていただきます。

36ページになります。

歳入2款4項1目森林環境譲与税1節森林環境譲与税の決算額は3,223万2,000円で、前年比800万円の増となっております。森林経営管理法に基づき譲与され、上多田川地区保育間伐等の森林整備事業のほか、林道整備に活用しております。

1つ省略し、飛ばします。

16款2項4目農林水産業費県補助金2節林業費県補助金の決算額は1,325万8,000円で、前年比22万円の減となっております。主な要因は、造林事業で37万5,000円増と、ナラ枯れ被害木駆除の本数が17本増え、17万円増額となっておりますが、林道橋の塗膜調査補助金の76万4,000円が減ったことにより、減額となっております。

17款2項1目不動産売払収入1節立木等売払い収入の決算額は1,186万4,000円で、前年比825万3,000円の減となっております。主な要因は官公造林の分収金825万円減額したことによるものです。

1つ飛ばします。

19款1項5目交流資源利活用推進基金繰入金1節交流資源利活用推進基金繰入金の決算額は1億177万1,000円で、前年比7,252万2,000円の増額となっております。

19款1項12目森林環境譲与税の基金繰入金1節森林環境譲与税の基金繰入金の決算額は1,243万8,000円で、前年比395万5,000円の減となっております。林政アドバイザー報酬、上多田川地区保育間伐等の委託事業や林道整備事業に充当しております。

21款4項2目公団造林受託事業収入1節公団造林受託事業収入の決算額は4,635万5,000円で、前年比2,223万5,000円の増となっております。主な要因は、前年度に対し作業道新設事業が330万円、更新伐複層林事業で1,493万円の繰越事業分の増額によるものです。

21款5項1目雑入の決算額は20万3,000円で、前年比410万8,000円の減となっております。主

な要因は、森林国営保険損害保険金の120万2,000円、送電線下の伐採補償金288万5,000円が減額したことによるものです。

歳出、1つ飛ばします。

6款2項2目林業振興費、決算額は4,186万円で、前年比375万円の増となっております。主な要因は、森林経営管理計画策定委託料の繰越事業分770万円減額となりましたが、上多田川地区森林経営管理事業の造林保育事業委託料166万7,000円、森林環境譲与税基金積立金880万9,000円の増額によるものです。

6款2項3目一般造林費、決算額は2,468万円で、前年比316万5,000円の増となっております。主な要因は、再造林面積1ヘクタール増え杉苗木の本数も増え92万円増額と、森林経営管理作業員報酬200万円増額したことによるものです。

6款2項4目分収造林費、決算額4,928万3,000円で、前年比2,428万9,000円の増となっております。主な要因は、更新伐事業による作業道新設、丸太移動業務の601万円増、繰越事業分1,815万円増額によるものです。

6款2項5目林道費、決算額は1,061万7,000円で、前年比140万8,000円の増となっております。主な要因は、林道橋塗膜調査153万円の減、原材料及び重機借上料70万3,000円減額しておりますが、葡萄沢林道工事費264万円、林道道刈り委託料103万円増額したことによるものです。

38ページになります。

6款2項6目林道施設費、決算額は1,312万6,000円で、前年比551万3,000円の増となっております。主な要因は、荒沢自然館管理棟外壁工事費で482万円増額したことによるものです。

1つ飛ばしまして、11款1項2目1細目林業施設災害復旧費、決算額は118万8,000円で、前年比103万1,000円の増額となっております。主な要因は、宮崎切込地区、檜崎地区の林道災害復旧修繕によるものです。

以上であります。

○委員長（三浦又英君） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑ございませんか。

8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 3か所一緒に聞いていいんですか。

○委員長（三浦又英君） どうぞ。

○8番（伊藤由子君） 最初、農林課さんにお伺いします。決算書が202ページ、説明書174ページ、利用自粛牧草再測定業務委託についてお伺いします。一時保管場所の利用自粛牧草の再測定をしたという記述がありますが、この濃度の変化について、ざくっとでいいですけども、

どれくらい減衰しているものなのか。8,000ベクレル以上のものはどれくらいになっていて、それ以下のものはどの程度になっているのか、もしお分かりでしたら項目ごとに説明していただければと思います。

それから、決算書203ページ、説明書次のページ175ページ、町内にある放射性物質に汚染された利用自粛牧草の処理について、事業者視察や自治体訪問を実施したとありますが、不都合じゃなければ、どこに行かれたのか、こういった実態だったのか、説明をいただければと思います。

それから森林整備対策室の消防費、先ほど飛ばされましたが、消防費について、先日危機管理室に聞いたら、ぜひ森林整備対策室のほうに聞いてくださいと言われましたので、販売用まき原木の伐採に伴う放射能検査をされたということなんですが、これはどの程度の放射能濃度だったのか、検査物の検体が変わったので測定したと増額したとありますが、どの程度の濃度だったのか、販売に供するのに適した濃度だったかとは思いますが、それがお分かりでしたらお知らせください。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長です。

1点目と2点目の件について、私からお答えさせていただきたいと思います。

まず一時保管場所、こちらは田代放牧場になります。そちらのほうに一時保管している牧草の再測定につきましては、1,000ベクレルから2,000ベクレルの当初濃度のもの、そちらのほうの濃度を再測定をさせていただきまして、400ベクレル以下になっているものがあれば、そちらのほうはすき込みで処理をしていくといったような、すき込み処理をしていくための調査をさせていただいたというようなものになっております。

その濃度の再測定の結果、まず1,000ベクレル以下のものが362トンほど減、濃度が少なく、圧縮、圧縮って言い方変ですけども濃度が薄く希釈されていたものがありまして、計画重量で見ると362トンなんですけれども、実重量的には227トンほど400ベクレル以下の牧草が保管されているといったような状況になりました。また、重量、400ベクレル以下のものでも、重量、すき込みの際に再測定したときに、一部減容化が図られたものもありまして、令和6年度と令和7年度、そちらのほうはすき込み処理をしていくといったようなものとなっております。

また、ご質問にありました8,000ベクレル以上、こちらについては田代のほうに保管しておりませんので、今回の再測定のものとはまた別といったようなものとなっております。

また、町外といいますか圏域外処理に向けて、昨年度自治体訪問、それから圏域外処理の事

業者のほうの視察をさせていただいたところでございます。こちらのほう、もちろん自治体のほうともお話をさせていただきまして、風評被害等を防ぐためにも、どちらの自治体でありどういった処理方法なのかといったようなものは、申し訳ありませんけれども非公表にしてほしいということもありましたので、公表のほうは回答のほうは差し控えさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼林業振興係長。

○森林整備対策室主幹兼林業振興係長（高橋幸太郎君） 林業振興係長です。

ただいまご質問ありましたまき原木の放射能の結果状況がどうだったかにつきましてお答えさせていただきます。成果表にございますとおり、4検体のほうで放射能検査させていただいております。それで2件が小野田になりまして、そのうち杉のほうが20ベクレル、基準が1キログラム当たり40ベクレルが基準ですけれども、まず杉のほうは20ベクレル、広葉樹のほうも同じく小野田地区の同じ場所で検査しておりまして、こちらは17ベクレル。続きまして3か所目が宮崎の箇所になります。こちらにつきましては、同じくまきの広葉樹になりまして、こちらは3.4ベクレル。あと最後、成果表にも1件基準値超過したということで記載ありますけれども、こちら中新田地区になってございまして、こちら1か所が65ベクレルというような状況で、ほぼ基準値内というような状況であります。たまにスポットといいますか、放射能が高くなるような場所で採取する場合、たまに基準値を超えるといった結果や状況が出ている状況です。以上です。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 今の森林整備対策室のお答えに対して、またお伺いします。ということは、基準以下のものについては、これまで同様販売は可能だということですね。それから中新田地区の65ベクレルあった広葉樹については、これは販売は差し控えるということになるんですね。それから、もう基準以下のものについては、灰の管理というのは、まきを買って燃やした人が各自灰はきちんと処理することになっているのでしょうか。その確認だけお願いします。

それから、先ほど利用自粛牧草の再測定の結果についてお伺いしました。すき込みを目的とした、すき込みが可になる400ベクレルのものがどれくらいあるかということを目的にしたということで、それについてはちょっと私、確認していなかったもので、そうでしたかと思うんですが、具体的ということは1,000ベクレル以下、1,000ベクレル程度のものが400ベクレル程度に減衰していたという言い方はできるのでしょうか。何ベクレルぐらいあったものが、昨年まで800

ベクレルくらいあったものが、今年度は600ベクレルあるいは500ベクレル以下になっていたという言い方ができる例というのはあったものではないでしょうか。それをお伺いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼林業振興係長。

○森林整備対策室主幹兼林業振興係長（高橋幸太郎君） 林業振興係長です。

先ほどご質問ありました件につきましてお答えいたします。

先ほど伊藤委員おっしゃったように、基準値内のものについては問題ないということで販売させていただいております。基準値を超えたものにつきましては、基本的には基準値を超えているということで、販売は差し控えているのが基本的にはそうですが、比較的その間伐とかした関係で大量に発生したような場合については、林野庁の指針で正常なまきと混ぜて販売することは可能だという、そういった指標がありますので、大量に間伐等である場合については、有効利用という観点から利用させていただいている場合もあるというような状況が事実でございます。灰の処理につきましても、基準値を超えていないものについては、当然灰につきましても問題がないという状況にありますので、そちらは各自処理していただいているという状況です。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

400ベクレルから1,000ベクレルのものにつきましては、田代放牧場のほうに32ロット保管をさせていただいたところでございます。こちらの当初濃度としましては、平成28年に宮城県で全県一斉調査、再測定をしたときに測定したもので、団地分けといいますか濃度分けをさせてもらったところの1,000ベクレル以下のところを今回対象とさせてもらったところでございます。その結果、400ベクレルを下回ったものについては6ロットほどありまして、そちらのほうはすき込みのほうに回させていただくといったような処理の方針でございました。

ご質問のありましたどれくらい減衰しているのかというようなお話につきましては、ロットによってちょっとまちまちのものもありますので、ちょっと一概にこうだといったような説明はちょっと難しいんですけども、おおむね大体100ベクレルぐらい下がっているものが平均的なのかなといったような感想を持っております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） ありがとうございます。先ほどの説明があった視察先については、もち

ろんちょっと言えないんだろうなと思うんですが、参考になった、処理のための実はこれは知らなかったとかこれは大事な処理方法だとか、参考になったことが幾つかあったかと思うんですが、そういったことについてはお知らせしていただけないでしょうか。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

まず今回視察先、訪問先につきましては、県から情報提供をいただいたところについてご訪問させていただきまして、圏域外処理に向けて、その自治体の状況、それから処理施設の状況などを確認をさせていただいたというところがございます、参考になるかどうかといったようなところというよりは、そこで処理ができるかどうかといったようなものを確認をしていくといったようなイメージが強いのかなと思っております。その中で法令に即した処理の方針の下、行われているといったような確認をしてまいりまして、今回農家保管しております汚染廃棄物について、少しでも早くその農家さんの負担を外したいという思いから、圏域外処理について令和6年度から委託事業として実施をさせていただいたところでございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 6番早坂忠幸委員。

○6番（早坂忠幸君） 説明書は131ページ、それから決算書は149ページです。鳥獣対策事業被害対策事業、この中で……。

○委員長（三浦又英君） 忠幸委員、もう少しマイクつけてください。

○6番（早坂忠幸君） 失礼しました。説明書のほうの事業の内容の中に、追い払い等の実施ありますよね。この中に未収穫果樹の収穫、これの内容、あとそれからその下の電気柵等の一部購入助成ありますよね。これ多分半額かなと思ったんですけども、この内容教えてください。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 主幹兼鳥獣対策係長、お答えいたします。

まず、こちらの追い払い等の実施、未収穫果樹の収穫ということですね。こちらのほうにつきましては、小野田地区の小野田の鹿原地区で実施を行っております。内容といたしましては未収穫果樹、柿の木ですね。柿の木に令和5年度に熊が登って食べるという被害がたくさんありましたので、未収穫果樹の柿の木を、そちらのほう高所作業車を利用したり、あとははしごで登ったりして伐採もしくは収穫ということをさせていただきました。

続いて電気柵の補助、電気柵等の一部助成事業なんですけれども、こちらのほう基本的には半額助成ですが、限度額は12万円までとなっております。ただし個人、団地、地区に分かれ

ておりまして、個人であれば最大12万円までの補助になりますが、団地だと30万円の3分の2、地区行政区等でございますと限度額30万円までの100%補助ということになっておりますのでよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 6番早坂忠幸委員。

○6番（早坂忠幸君） 今、柿の木という話が出たんですけれども、お恥ずかしながら地元でやったというのはこれ見て初めて分かったんですけれども、自分のうちでも柿の木に熊が来まして枝を折っていった年もありました。1回来ただけで来ないんですけれども、これはこれでよろしいです。

あとそれから一部助成の関係でお聞きしますけれども、12万円が限度。個人的に例えば自分で野菜とか作っている周りで電柵回しますよね。そのときに、バッテリーとかあと電気が通る線ですか。あれなどとかいろいろ購入して、ホームセンターから買ってやるわけですよね。これはバッテリーというのは、二、三年で終わるんです。ホームセンターの分は。そうした場合には、2回目、3回目と何回でもよろしいんですか。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 鳥獣対策係長、お答えします。

電気柵のほうのバッテリーですね、平均的に機種にもよるんですが、大体2年から3年、太陽光バッテリーと同じような形になります。それで例えば2年前に購入したものが、2年後にバッテリーがちょっとへたってしまったという場合については、もう一度助成を使っていたら対策をしていただければなと思っております。1年度に限りまず1回ということが原則ですが、次年度、さらにその次の年度ということで、連続してご利用いただいて構わないと思っております。ただし購入制限として3万円以上になりますので、そちらのほうだけご注意を呼びかけております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 6番早坂忠幸委員。

○6番（早坂忠幸君） 確認しますけれど、バッテリー、今、3万円って言いましたよね。バッテリー3万円以上という意味ですか。全体で3万円以上という意味ですか。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 鳥獣対策係長です。

すみません。全体でございます。バッテリーのみではなく、全体で例えばバッテリー、あと

は電線とかあとはその他の資材含めて3万円以上ということになります。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 別な要件で質問してください。3回で終わります。どうぞ。6番早坂忠幸委員。

○6番（早坂忠幸君） 3万以上になりますと、ケーブルとかそのくいとかね、あれらはもつんです。バッテリーは1万円もしないんです、これが二、三年もつわけですよ。ですからバッテリーが悪くなるだけでほかは何年も使えるんですね。その辺3万円以下ですから駄目だと言われればそれまでですから。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 鳥獣対策係長、お答えします。

すみません、3万円以下ということなので、バッテリーのみだとすみません、ちょっと厳しいかなと思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。4番佐藤委員。

○4番（佐藤圭介君） 4番です。幾つか質問させていただきます。

まず説明書114ページの中で右側、事業内容の中で原種苗事業負担金9万2,000円とありますが、これは採種場が加美町にあるということでの支出という理解でよろしいでしょうか。そしてこれについては支出をするだけで、何かこの事業に対して物申す場があるのかどうか、お聞きをしたいと思います。

2つ目、121ページ、グリーンツーリズムの関係なんですけど、これも説明、事業内容の中に放課後デイサービスというのが受入れ実績の中にあるんですけど、この中身についてご説明をお願いいたします。

それから122ページになります。小・中学校への食農体験支援事業ということで補助金の支出があるようですが、これについて、農林課としての狙いとそれからこの効果についてどのように考えているか、少し詳しくお話をいただければと思います。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 答弁できますか。農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 農林課長でございます。

最初、成果表114ページの原種苗関係の負担金でございますけれども、こちらについては採種場がある市町村のみだけでなく、県内の市町村の負担金となっております。この事業の関係で物を申す場があるのかということにつきましては、この原種苗事業について、担当者会議

などがありまして、この原種苗事業についていろいろ市町村の担当者が説明を受け、あとは来年度の採種取法であればその契約などの締結といったもので協議というものはございます。特に意見を申すとか、そういった場はございません。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） グリーンツーリズムの件はどうですか。どうぞ。農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 農林課長でございます。

すみません。グリーンツーリズムのほうですが、放課後デイサービスのほうにつきましては、ポコ、大崎市にあるそこの受入れでございまして、昨年度は春と秋、田植と稲刈りの体験を受け入れたというものでございます。

続きまして、3点目は成果表122ページの食農体験支援事業、こちらでございますけれども、こちらにつきましては、令和6年度は町内9校、鳴峰中を除く小・中学校でこの事業を活用していただいたところでございます。これにつきましては、加美町、農業基幹産業とした町ではございますけれども、やはり非農家の家庭もありまして、生徒さんもそれなりにおります。学校におきまして、食の生産から体験をしていただき、農業、食に対する理解を深めていただくということで実施しておるものでございます。例えば小学校におきましては、サツマイモ栽培、収穫したり、あと学校によってはみそ造りを体験するといったこともしております。中新田中学校におきましては、新米試食会をするなど、そういったことを事業として実施していただいております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 4番佐藤委員。

○4番（佐藤圭介君） 今の件について幾つかもう1度再質問させていただきます。

原種苗事業について、全市町村ということ、意見する場というものはないということではあるんですが、まず6月の一般質問の中でもちょっとだけお話をさせていただきましたが、加美町2か所種場があるということ、それから特にこの増産ということが叫ばれる中で、種がなければ増産もできないということでもありますし、ただ、そういった中でなかなか県のありようというものがなかなか見えてこないというのが実感として生産者のほうにはあるようです。ぜひこの辺、生産者の声も聞いていただきながら、県の事業ではあるんですが、そこに反映できるように持っていただければなとも思いますので、どのように考えていらっしゃるか、お伺いをいたします。

2番目のことについて、ポコのこと、放課後デイサービスですか、については了解をいたし

ました。

それから3番目なんですが、これグリーンツーリズム等のちょっと関わりというか、また明日教育委員会の決算審査もあるので、そのときにもちょっと話をしようかなと思っていたんですが、せっかくグリーンツーリズムの事業、町外からたくさん生徒さんたちを受入れしているという中にあって、逆に地元等の子どもたちに対する農業、農村に対する理解というもの、本当に地元に対する理解というものを得る場というものがちょっと少ないような気がしております。そういったことで以前ちょっと1度だったかと思うんですが、町内の小学生、民泊をしてということもありましたので、その辺の検討をしてはいかがかなということを思ったものですから、その辺どのように考えるか、お伺いをしたいと思います。

それからちょっと追加でもう1つ。別な件で125ページ、わさび園のことについてなんですが、生産は昨年度で終了、令和6年度で終了と。跡地については活用の方策を考えるというような記述があるかと思うんですが、これについてどのように考えているのか伺いたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 農林課長でございます。

1点目の採種、種場の関係でございますけれども、こちらにつきましては、農協さんとちょっとその辺いろいろ検討させていただければと思います。

2点目のグリーンツーリズム関連で、地元の子どもたちへの農業体験の場の広がりでございますけれども、実際この成果表122ページのこの食農体験支援事業とは別に、宮崎地区におきましては、地元のNPO法人が田植体験から稲刈りまで受け入れているところもございます。今年の田植体験では手植えで田植をしまして、それだけじゃなくて最新の技術ということで、アイガモロボをその場で動かして、今現在こういった農業というのものもあるんだよというものを子どもたちに見てもらったところでございます。宮崎でそういったNPOによる体験の受入れ、子どもたちに体験してもらっているわけでございますけれども、そういった体験を受け入れてくれるそういった団体がもっと町内にも同様に広がるような、そういった動きなども検討させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あと3点目のわさび園でございますけれども、わさび園につきましては令和6年度末をもって生産終了いたしまして、現在は加美町振興公社に草刈りであつたりとか、そういった園の管理をしていただいております。当然そのままにはしておけませんので、こちらといたしましても、県のほうに何かあそこの施設を使って何か栽培できるものがないか、ちょっといろいろご指導いただいたりもしております、現在検討している最中でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 4 番佐藤委員。

○4 番（佐藤圭介君） ただいまの件は、全て了解をいたしました。

もう 1 つ 2 つ、質問いたします。1 つは説明書の 128 ページです。ブランドづくりということでムラサキ栽培についてであります、非常に特徴のある作物です、商品開発なども積極的に行っているように見ております。ただ、その広がりといいますか、もう一つなのかなというところがあります。収益性、それから将来性についてどのように考えているのか、お伺いをしたいと思います。

それからもう 1 つ、最後になります。森林整備対策室のほうに、説明書 183 ページになります。ナラ枯れの関係でちょっと質問させていただきたいと思います。誰も多分知らないと思いますが私、毎日薬菜山の写真を撮っているんですが、ずっと撮ってちょっと遡って見ますと、去年のたしか 6 月頃に撮った写真あたりから、非常に茶色い部分が目立ってきているなと思って見えています。今朝も改めて写真も撮りながら見ていたわけなんです、大分その広がりが大きいなと思って見ております。ナラ枯れだということで、ちょっと私なりに知り合いに聞いたり調べたりもしておるわけなんです、この対応についてお伺いをしたいなと思います。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 農林課長でございます。

成果表 128 ページの薬用植物栽培支援事業の関係でございますけども、こちらのほうにもあるんですけども、令和 6 年度収穫量が 67 キロということでございます。このムラサキという薬用植物なんですけれども、やはり作物じゃなくて植物といいますか、その栽培技術がなかなか確立されていない、また機械化もされていないということで、この収穫量にもその年によって動きがありまして、大分その収穫量に年によって開きがございます。しかしながらこの研究会のほうに会員の方も最近また加入していただいたりして、一緒にムラサキの栽培しております。このムラサキの栽培、成果表にもございますが、芋沢圃場、会員圃場とございます。芋沢圃場につきましては、共同の圃場ということで会員皆さんと一緒に作業しております、そのほか会員各自の圃場で栽培している、この 2 通りで栽培しております。

それでこのムラサキにつきましては、化粧品の原料に回したり、あとは現在製薬メーカー、化粧品メーカーと契約のほうを手段進めておりまして、そちらのほうに紫根という根っこの部分をそのまま出荷する手段を現在行っております。あとそれから化粧品のほうに材料として使

っておりまして、紫根石けん、オールインワンジェル、ハンドクリーム、リップクリーム、入浴剤、そういったものを商品化して、現在販売しております。こちらのほうも以前台湾の嘉義市の市長が加美町にこられたとき、役所において紫根石けん50個買っていただいたということで、いろいろ加美町の加美町オリジナルのお土産としても、今後活用していきたいと思っておりますし、このムラサキという植物、絶滅危惧種にもあり、大変貴重な作物であります。それを必要とする製薬メーカーなどもございますので、その需要に応じた生産を今後も研究会のほうで続けてまいりたいと思います。化粧品関係も販路拡大して、売上げ増加に全て結びつけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 林業振興係長。

○森林整備対策室主幹兼林業振興係長（高橋幸太郎君） 林業振興係長です。お答えいたします。

ナラ枯れに関してご質問ありまして、ナラ枯れにつきましては、まず経緯といたしましては、令和2年度あたりから加美町のほうでも状況が見られる状況になっておりまして、毎年実施しております。それで徐々に減ってきた状況ではあったんですが、佐藤委員おっしゃられるとおり、ちょっと昨年度少し17本、室長からも概要説明でございましたけれども17本増えたということで、減少傾向にあったんですが、昨年度ちょっとまた増加したという状況が見られております。それで今年度につきましても、毎年9月に定期的に調査することになっておりまして、そちらの調査内容を踏まえて次年度実施ということでしたしておりますけれども、ちょっと今年度、作業のほうが委託しないとちょっとできない状況にございまして、それで委託というような形になりまして、年度途中で業者さんとかにも相談いたしましたんですが、なかなかほかの業務等でちょっと実施も難しいということで、今月もナラ枯れの調査する予定でおりますけれども、そちらのナラ枯れの調査、また再度調査させていただきまして、そちらの調査、被害状況を踏まえて、来年度委託するような形で業務を進めていただければなということで、これから検討して進めていきたいと考えているところです。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 5番早坂伊佐雄委員。

○5番（早坂伊佐雄君） 成果表の172ページです。ワラビもぎとり園なんですけれども、令和6年度の利用者数どれくらいあったかお聞きします。

それから同じく成果表の175ページで、先ほどちょっと汚染牧草で質問ありましたけれども、令和6年度末で400ベクレル以下の残量がどれくらいあるのか、それで先ほど処理の方法としてはすき込みだということでしたけれども、処理年数大体どれくらいかかるのかお聞きします。

○委員長（三浦又英君） 副参事兼農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 副参事兼農業振興係長、お答えいたします。

こちらはワラビもぎとり園の管理費用としまして、電気代として光熱費5,804円をお支払いしているんですが、これが下台野の放牧場の手前の入り口の管理棟のところでした、そちらの一応電気代という形になっていまして、ワラビもぎとり園、施設名ついているんですが、もぎとり園に関しては普通財産という形で管財のほうで契約しているので、ちょっとこちらのほうでは利用客数を把握しておらないところです。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

2点目の400ベクレル以下の牧草の保管状況、あとはすき込みの予定といったところでございますが、令和6年度末時点で農家保管分が104トン、それから町保管分としまして156.9トンの合計260.9トンほど保管しているところでございます。

こちら令和7年度のすき込み圃場としまして、14ヘクタールほど予定をしております、この令和7年度で400ベクレル以下のもの全てすき込みが終了するといったような予定となっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 5番早坂伊佐雄委員。

○5番（早坂伊佐雄君） 172ページの先ほどのワラビもぎとり園なんですが、成果の説明というところに電気の契約を解約した云々とあるんですけれども、これは特に夜間にワラビもぎとりするわけでもないでしょうから、特にここ電気のほうの契約を解約したということでの支障ないのかどうか、確認をさせてください。

○委員長（三浦又英君） 副参事兼農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 農業振興係長、お答えします。

こちらの管理棟も含めまして、今年の4月から新規就農で薬菜の下台野地区で羊放牧をするという方に、今度普通財産としてまた管財のほうでお貸しして、そちらのほうで契約をして、その管理棟も含めて電気も契約して使っているという形になっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） その他質疑、11番沼田委員。

○11番（沼田雄哉君） 11番。成果表の141ページになります。ここに土づくりセンター管理事業について載っています。達成度が星印が2つと、いまいちになっているのかなと思います。こ

の事業の内容の欄に、家畜排せつ物受入れ、また食品残渣の受入れ、この内容が出ています。これらを利用して堆肥を生産しているわけですが、令和6年度の販売数量、また販売金額、どのようになっているかお伺いをいたします。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

令和6年度の土づくりセンターにおけます生産量、販売量につきましては合計で880トン、生産をしたところでございます。そちらの販売量につきましては、令和6年度の収入といったような形でご報告、失礼しました。令和6年度の販売金額としましては、493万6,000円となっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 11番沼田委員。

○11番（沼田雄哉君） 処理量が目標とする量の半分くらいで推移しているようですが、今後の見通し、どのように捉えているかお伺いいたします。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

今後の見通しでございますが、現在土づくりセンターの攪拌機、これは通常2レーン、AレーンとBレーンというのを動かしておりますが、こちら今現在Bレーンのほうが、攪拌軸の磨耗によりましてちょっと動かすとこれがもう動かなくなるといったようなおそれがありまして、現在Aレーンのみの対応となっているところでございます。

ただし、販売量につきましては、これまでも同様大体1,000トン前後で推移をされていて、このようなところがございまして、この目標としているところには、恐らくもう少し生産能力を高めていかなくてはいけないといったようなのが実際のところだと思います。それに向けて、新たな販路拡大に向けて取り組まなくてはいけないといったようなのが、まず大きな目標とはなっているのかなと思っておりますが、ただ生産量を拡大するに当たりましては、今度はBレーンのほうもどうしても稼働させなくてはいけないというような状況が出てくるかと思えます。そうしますと攪拌軸のみだけでも2,000万円の修繕料がかかります。装置全体を更新していくとしますと、平成21年竣工されたものですので、もうかれこれ20年近く稼働している施設になってきております。装置全体をもう一度改め直すとなると7,000万円近くかかってくるといったようなものとなっております。現在この費用対効果といったようなところを鑑みた場合に、

新しい販路がない限り、7,000万円をかけても修繕をしていく意味があるのかといったのは慎重に検討していく必要があるのかなと思っております。ちょっと回答になっているかどうか分かりませんが、現状としてはそのような考えでございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑ございませんか。3番今野委員。

○3番（今野清人君） 3番です。まずは成果表112ページ、家畜の餌対策ということの部分です。この中で各家畜の種類によって、肥育牛から始まって鶏まで各単価ということで出ております。この単価の算出根拠を教えてくださいと思います。

次に131ページの鳥獣害対策の部分で、推進体制の整備ということで、個体数調整ということで各このくらい捕りましたよという数字出ていますが、町としては、今、加美町にどれくらいの例えば猿何頭ぐらいいるとかですね。イノシシ何頭ぐらいいるといふ、これはあくまでも予想という部分以外に、それ以外にお話はできないんだと思いますけれども、町としては大体このくらいはいるんじゃないかという頭数、この辺データ等々あるのかどうかお聞きしたいと思います。

最後186ページ、すみません。森林整備対策室の部分ですが、すみません、これちょっと私、お聞きしたいというか、私も勉強不足と言われればそれまでなのでしょうけれども、この町の制度というか、町の役割の中でいろいろ道刈りということで、中新田地区1路線から宮崎地区24路線ということで出ているんですけども、決算書を見ますと、例えばこの宮崎地区の路線24路線の分は（宮崎支所）ということになっているんですが、これはまとめているのは森林整備対策室なんだけれども、事業の内容等は支所に聞いてくださいということなのか、この辺ちょっと教えてください。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

1点目の配合飼料助成制度の積算根拠でございますが、配合飼料につきましては輸入に依存しております濃厚飼料の一部といいますか、濃厚飼料を組み合わせで作られているのが配合飼料でございます。こちらが令和2年度以降、世界情勢によってどんどん値上がりをしていっているような状況でございました。令和6年度の今回の補助事業につきましては、飼料高騰前の令和2年度を基準価格としまして、令和6年10月における飼料価格から家畜1頭当たりの飼料価格の高騰分を算出しております。その金額に、こちらのほうで係数としまして4分の1といったような金額を設定、係数を設定させていただきまして、その4分の1を乗じた

金額として、それぞれの単価を設定させていただいたところでございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 鳥獣対策係長、お答えします。

鳥獣の生息頭数等についてということですが、まず猿のほうは県の調査等がありますのである程度は把握しておりますが、猿についてはまず加美町のほうには4群れありまして、小野田に2群れ、宮崎に2群れでございます。各群れとも大体20から30頭ほどの頭数となっておりまして、その1つの群れとしまして昨年の小野田の1群れのほう約18頭捕獲したので、ほぼ全滅に近いような頭数を捕獲したということになっておりますが、2年前のデータでございますのでまだ生息頭数はおるのかなと思っております。あとはイノシシにつきましては、豚熱等の関係もございまして、一時期に比べれば生息頭数は減っているのではないかなというような予測ではございますが、狩猟者の方々に聞くと山の中には結構いると。ただ知恵がついて捕獲がなかなか難しいということもあるので、生息頭数は横ばいなのではないかなと思っております。あと鹿につきましては、狩猟者の方々につきましては非常に増えてきているということで、鹿のほうも計画的に捕っていかないと、今後被害が増大するんじゃないかということではございます。ツキノワグマにつきましては現在報道等でもいろいろとありますけれども、基本的には横ばいだと思っております。宮城県の一応ツキノワグマの生息個体数はおおよそですが、2,783頭と推定をされているところでございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 林業振興係長。

○森林整備対策室主幹兼林業振興係長（高橋幸太郎君） 林業振興係長です。

ただいまご質問ございました林道費に関してお答えいたします。林道費につきましては森林整備対策室の予算のほうで取りまとめて、一応林道費という形で予算計上させていただいておりますけれども、実際林道の管理のほう支所に管理を任せているということもございまして、一括で取った予算から各支所に予算を配分いたしまして、そちらを各支所で事業費を使って運営いただいているということで、決算書の記載については宮崎支所というような記載になってございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 3番今野委員。

○3番（今野清人君） まず家畜の餌の部分ということなんです、確かに畜産やられている方

のお話聞いて、こういうふうに予算を組んで補助いただくということは本当にありがたいことだと。それを分かりつつも言われるのが、この金額もらっても焼け石に水だぞと。本当に畜産は厳しいよという意見を多くいただきました。今後も、今、若干家畜の値段も前と比べれば随分戻ってきたのは、今日も小牛田で市場行われているわけですが、今日の値段はちょっと分かりませんが、先月までのあれを見ていると、随分前のときよりは戻ってきたなという感覚ですので、この辺しっかり実際にやられている農家の方々に実際お話聞いていただいて、今、実際にどういった畜産のお金というのが必要なのかというのを聞き取りしていただくとよろしいのかなと思いました。

それで次に、鳥獣対策の部分なんですけど、横ばいというお話、今、いただいたんですが、ということは分母の部分は分からないと。何頭ぐらいいるかというのはちょっと町ではつかんでないですということなんだと思います。ただ、今いるものは大体横ばいぐらいで生息続いているのかなという部分だと思うんですが、それでこの成果表131ページ見ていただくと、捕獲頭数目標180、令和6年が180に対して実績240ということになっています。その分母が分からないのに180頭の目標を設定したと。この180頭というのは、目標はこれはどういったものから算出した180頭なのかお答えいただきたいということです。

あと、森林対策の部分は大変分かりました、ありがとうございます。

以上です。その部分お願いします。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

ご助言本当にありがとうございます。確かに特に枝肉など、今、見ていきますと子牛のほうは令和6年と比べて令和7年は2割ほど値上がりはしているかなと思っているところでありますけれども、枝肉のほうは実際ほぼ横ばいになっているような状況になっております。特に枝肉のほうで肥育農家さん、枝肉で出荷するのが大体28か月前後とされていますので、それを調達した時期というのが令和4年とか、そういう時期に調達した子牛を今回肥育として出荷しているというような流れになっていまして、令和4年というのが70万円近くで子牛が取引されていた時期でございます。子牛の価格が非常に高い時期に購入したものが、今現在枝肉のほうでは価格のほうで据置きで反映されていないというような状況になっていますので、かなり肥育農家さんのほうについては厳しい状況にあるんだなとは聞き及んでいるところでもありました。

ただ、委員さんおっしゃるように、まだまだ私も着任して3か月でございまして、畜産農家

さん全ての方と顔見知りになっているわけでもなく、本当に初めての畜産業でして、右も左も分からない中やらせてもらっていますので、ぜひ仲介ではないですけれども、いろいろな畜産農家さんのほうの顔つなぎなどをお願いできればなと思いますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 鳥獣対策係長。

○農林課主幹兼鳥獣対策係長（大場政之輔君） 鳥獣対策係長、お答えします。

こちらの目標の算出根拠といたしましては、過去の捕獲頭数等々を確認しながら算出をしてございます。すみません、今、ちょっと手持ちの資料ございませんが、県内のほうのイノシシ部会のほうでは大体の生息頭数はつかんでおるんですけれども、町内って限るとなかなかつかめないものでして、まずは捕獲頭数等を見ながら、予算の算出をさせていただいております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 3番今野委員。

○3番（今野清人君） 畜産係長、ぜひ我々畜産農家も期待しておりますので今度顔つなぎしましょう。よろしくお願いします。答弁は結構です。以上です。

○委員長（三浦又英君） 1番田中委員。

○1番（田中草太君） 成果表120ページの新規就農者育成総合対策事業についてお伺いいたします。当初の予算で2,055万8,000円計上されていて、決算のほうで376万8,000円という形で、大きく減っているかなと思うんですけれども、こちらこういった計画をされていたのかということと、これ結構事前の審査とか、あと採択されてからも計画審査したりとか、やるのが大変な認識なんですけれども、どうしてこれ満たなかった、要因の分析などについてもお伺いできればと思います。

○委員長（三浦又英君） 農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 農業振興係長、お答えします。

この新規就農総合対策事業としましては、機械施設整備等を導入する経営発展支援事業、ハードの部分と、あとソフトの部分の経営開始後の資金を支援する開始資金と2種類あります。

今回まず経営発展支援事業に関しましては、1,500万円で計上を予算上はしているんですが、昨年度は4名の要望があったんですが、結構厳しくてポイント制がありましてちょっと去年はゼロという形で、決算がゼロという形になりました。今年に関しては2名の採択になっておるところで、今、2名の方が導入を進めるところでございます。なのでこの辺経営発展支援事業がなく、開始資金のほうだけで決算書に載っているとおり、3名で合計375万円を補助金とし

て交付する形という結果になっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） 応募はあったけれども採択に至らなかったということですね。

関連してなんですけれども、この事業って経営開始型だけではなくて、準備型とちょっとまた別の事業ですけれども、農の雇用などもあるのかなと思っております。地域計画、別の資料ですけれども作っていただいて、なかなか将来の担い手がいらないという集落が多くなっている中で、若くて農業がしたいという方は貴重だと思いますので、こういった資金を活用することってすごく重要であって、後押しになるんじゃないかなと思うんですけれども、準備型ですとか農の雇用と言われたものの活用の状況について、お伺いいたします。

○委員長（三浦又英君） 農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 農業振興係長、お答えします。

この新規就農対策事業のうち、恐らく新規就農準備金という形でよろしかったでしょうか。こちらのほうに関して資金というのがありまして、こちら就農に向けた必要な技術を習得して、研修期間中の研修生に資金を交付する事業となっております。こちらのほうは県のほうでやっている事業でございまして、農業公社のほうで受付をやっている事業でございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） 1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） ちょっと追加なんですけれども、加美町の中で使われている方って把握されていればもし、お伺いしたいです。

○委員長（三浦又英君） 農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 準備金に関してはなかったと思います。

○委員長（三浦又英君） 9 番木村委員。

○9 番（木村哲夫君） 成果表の126ページ。世界農業遺産の関係で、ここに新しく加工品とかそういういったブランド化とは書いてありますけれども、今どういう現状なのか、1 点。

2 点目は、成果表158ページの田んぼダム用設置資材ということで54万7,800円ほど支払っておりますが、これはどのぐらいの田んぼダムを、今、やっているのか。

3 点目。170ページの畑わさびの生産確立のため云々というのがあります。令和3年から始まって、そろそろもう成果も出てきて軌道に乗っているのか、その辺の状況。

以上3点お願いします。

○委員長（三浦又英君） 農林課長。

○農林課長（尾形一浩君） 農林課長でございます。

それでは私からは、126ページの世界農業遺産のブランドのほうについて説明させていただきます。この内容にありますブランド、ブランド認証制度かと思いますが、これにつきましては、この大崎管内で作られた農産物、またはその農産物を活用して作られた加工品、そういったものをブランド品として認証しようという制度でございます。その中で、その加工品についてでございますけれども、町内で認証されている加工品といたしましては、今野醸造さんのみそであったり、あとミソルト、それから町内でサツマイモなりジャガイモを栽培している方がチップス化した商品、それからニンニクを生産されている農家の方が黒ニンニクというものを商品化いたしまして、それらがこのブランド認証制度において認証されております。

ご参考までに、そのほかの加美町における認証品となりますと、伝統野菜の1つであります小瀬菜大根、こういったものがブランド認証として認証されております。

私からは以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼農村整備係長。

○農林課課長補佐兼農村整備係長（中山芳治君） 課長補佐兼農村整備係長でございます。

質問、田んぼダムのほうにつきましては購入資材ということで、これは多面的機能支払交付金の参画の組織1組織になりますけれども、そちらへの資材提供で、あと多面的活動交付金のほうで設置をしていただいているところでございます。こちらの1組織につきましては、現在62ヘクタールほど取り組んでいるところでございます。これは合計3年間やってきていただいたところで、それで合わせて62ヘクタールとなっております。

それで今、田んぼダムの普及の活動につきましては、多面の中間指導会ということで各組織にいろいろ中間検査とか行う際に、使ってはどうかということでは何回かお話しはしています。中新田地区につきましては、流域治水ということで指定区域、特定都市河川法になっているために、そちらを普及は進めたいなどは考えているんですが、現在まだほかの組織から参画したいという言葉はあまり聞けない状況でございます。ほかの地区で、今現在進んでいるところにつきましては、圃場整備地区、今現在、小野田東部地区、月崎清水地区で圃場整備、区画整理を行っているところでございます。これにつきまして令和6年度の実績といたしましては、東部で3ヘクタールほど設置している状況でございます。月崎清水地区について5ヘクタールほどの設置を予定しており、令和7年度も引き続き、県営事業で設置していくということで、普及を図っているところでございます。

○委員長（三浦又英君） 農業振興係長。

○農林課副参事兼農業振興係長（西塚新也君） 農業振興係長です。

3点目の畑わさびの関係についてお答えいたします。畑わさびに関しましては令和4年度に初めて定植作業を行いまして、その定植の分に対して、去年の6月から7月にかけて初収穫という形になっておりまして、令和6年度産に関しましては5名の生産者、約3反歩の圃場から1,147キロを一応出荷をしております、売上げとして合計で463万90円という形になっております。収量が多かった生産者に関しては、1反歩当たりの圃場から1トン以上の収穫をしまして40万円以上の売上げになりましたが、1反歩当たりの収入が40万円を超える形になったんですが、5人全員の平均としましては、1反歩当たり15万円という結果になっております。これは想定している目標としまして所得のほうで四、五十万円という形になっておりますので、まだまだちょっとまだ1年目という形で収量は少なかったのかなという。あと令和7年産に関しましては、同じく7月に収穫していますが、まだちょっと集計が出ていません。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） ありがとうございます。また別の項目でお願いします。成果表177ページの羽場ため池災害の附帯工事一式ということで上がっておりますが、こういった工事だったのか1点。

最後もう1点は、決算書の41ページで、家畜導入資金貸付金収入というのがありますが、昨年の決算書を見ますと、去年は調定額が140万5,000円、収入済額が1万5,000円、不納欠損が85万円で、収入未済額が54万円となっております。それが多分今年の調定額の54万円となって、収入済額はゼロということで、先ほど課長の説明で今年はゼロというか入っていませんと。この辺の状況についてお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長補佐兼農村整備係長。

○農林課課長補佐兼農村整備係長（中山芳治君） 課長補佐兼農村整備係長でございます。

羽場ため池の災害復旧附帯工事、これにつきましては原形復旧で復旧をいたしました。それで貯水状況、貯水している段階で、内側のほうの斜面の部分の盛土をある程度締め固めはしたんですけども、そこが一部とろける状態になった次第なので、貯水するために防水のための施工をいたしました。それについて堤体ののり面部分で94平米ほど行っていることでございます。これで全部羽場のため池のほうは完了しております。

○委員長（三浦又英君） 畜産係長。

○農林課主幹兼畜産係長（菅原敏之君） 畜産係長でございます。

こちらのほうにつきましては、合併前に家畜導入事業として貸付けした債権がまだ残っているとといったような状況でございまして、木村委員さんお話ししていただきましたとおり、ご推測のとおりかと思っております。現在1件だけ残っている状況でございまして、こちらのほうにつきましては昨年来、昨年といいますかずっと毎月納入のほうお願いしますといったような通知を出させていただいておりますが、その納入の実行には至っていないのかなというふうになっております。

以上です。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。（「なし」の声あり）なしという声がありましたので、質疑なしと認めます。

これにて、農林課、農業振興対策室及び森林整備対策室の所管する決算については質疑を終わります。

それでは、担当課の入替えのため暫時休憩いたします。3時まで。

午後2時47分 休憩

午後3時00分 再開

○委員長（三浦又英君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、商工観光課の決算審査を行います。審査に先立ち、所管する決算の概要について説明をお願いします。商工観光課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課でございます。よろしくお願いいたします。商工観光課本日3名で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

説明に入る前ですが、概要説明書1か所修正を見逃したところがありますので、大変申し訳ございませんが、修正をお願いします。ページ数にしまして、40ページの1行目です。

○委員長（三浦又英君） 説明書、成果表、どちらだ。

○商工観光課長（阿部正志君） 概要説明書の40ページになります。

1行目の数字のところでございますが、報償費（返礼品代金）91811とありますが、ここを918万1,000円の減と、1を1つ修正をお願いいたします。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは商工観光課概要説明書のほうに入らせていただきます。

ページ数にしまして、39ページをお願いいたします。

所管部署商工観光課、一般会計歳入の部でございます。

16款2項5目商工費県補助金、決算書30ページになります。1節の商工費補助金は、市町村消費者行政活性化事業補助金9万4,000円で、前年度対比で1万8,000円の減となっております。

続きまして、18款1項1目総務費寄附金、決算書34ページになります。1節の総務管理寄附金は、ふるさと応援基金寄附金2億3,174万7,000円で、前年度対比で1,965万6,000円の増となっております。寄附金件数は8,873件で、前年度対比5,477件の減となっております。寄附金額の主な要因としましては、町の特産品であるお米の定期便の利用者が増加したものによるものです。

続きまして、19款1項7目ふるさと応援基金繰入金、決算書36ページになります。1節のふるさと応援基金繰入金は1億5,074万6,000円で、前年度対比で1,560万9,000円の減となっております。内訳としまして、ふるさとの自然環境保全のための事業に2,916万6,000円、ふるさとの未来を担う子どもたちを応援する事業に4,310万円、活力あるふるさとづくりのための事業に7,480万円など、関係する59の事業執行予算に充当しています。

続きまして、21款3項2目商工組合中央金庫貸付金元利収入です。決算書42ページをお願いいたします。商工組合中央金庫貸付金元利収入は300万円で、前年度とほぼ同額となっております。

続きまして、21款3項3目中小企業振興資金貸付金元利収入、決算書42ページです。中小企業振興資金貸付金元利収入は5,202万3,000円で、前年度とほぼ同額となっております。

続きまして、21款5項1目雑入、決算書44ページになります。1節の雑入はやくらいハイツ使用料から機織伝習館使用料まで6件の収入科目で、前年度対比137万8,000円の311万5,000円となっております。増の主な要因は、信用保証協会保証料返還金136万5,000円の増によるものです。

続きまして、歳出の部に入ります。

2款1項1目一般管理費、決算書59ページ、成果表が196ページになります。1細目一般管理費のふるさと応援基金事業において、前年度対比1,171万8,000円減で、2億1,209万9,000円となっています。主な要因は、歳入におけるふるさと応援基金寄附金に伴う関連経費で報償費、返礼品の代金になる報償費ですが、918万1,000円の減、通信運搬費、返礼品の配送料に当たるところでございますが、735万3,000円の減、手数料、ポータルサイトの利用料に当たりますが、634万7,000円の増、委託料、業務代行委託料が58万円の増、ふるさと応援基金積立金における193万4,000円の減という内容となっております。

続きまして、4款衛生費1項6目健康増進費、決算書で137ページ、成果表で197から199ペー

ジになります。健康増進施設費の決算額は5,210万2,000円で、前年度対比で364万4,000円の減となっております。減の主な要因は、委託料476万円の減によるものです。

続きまして、6款3項1目水産業振興費、決算書で167ページ、成果表で200から202ページになります。水産業振興費の決算額は242万1,000円で、前年度対比で10万円増となっております。増の主な要因は、あゆの里環境整備事業補助金15万3,000円の増によるものです。

続きまして、7款1項1目商工総務費、決算書で168ページから169ページ、成果表で203ページから205ページになります。商工総務費の決算額は7,422万7,000円で、前年度対比で1,816万4,000円の増となっております。主な要因は、政策アドバイザー報酬及び費用弁償192万4,000円の増など、一般給料、職員手当の共済費の増によるものです。

続きまして、7款1項2目商工振興費、決算書で169ページから171ページ、成果表で206ページから211ページになります。商工費振興費の決算額は8,074万2,000円で、前年度対比で189万8,000円の増となっております。増の主な要因は、中小企業振興資金保証料補給金178万8,000円の増によるものです。

続きまして、7款1項3目観光費、決算書で171ページから174ページ、成果表で212ページから219ページになります。観光費の決算額は2,775万3,000円で、前年度対比610万1,000円の減となっております。主な要因は、イベント支援事業補助金415万4,000円の減などによるものです。

続きまして、7款1項5目商工施設費、決算書175ページから180ページ、成果表220ページから235ページになります。商工施設費の決算額は3億3,218万9,000円で、前年度対比で2,989万8,000円の増となっております。指定管理委託料につきましては、総額で2億4,334万2,000円で、前年度対比で3,806万6,000円の増となっております。また、施設の長寿命化を図るため改修や更新を行い、工事請負費総額6,419万9,000円で前年度対比2,957万円の増で、備品購入費においては総額273万9,000円で、前年度対比125万3,000円の減となっております。主な内容につきましては、細目3の陶芸の里温泉交流センター費は前年度対比1,123万2,000円の増となっております。増の主な要因は、指定管理料644万3,000円の増、工事請負費626万7,000円の増によるものです。

細目5のふれあいの森公園施設費は、前年度対比394万2,000円の増となっております。増の主な要因は、指定管理委託料167万2,000円の増によるものです。

細目7の保養センター等施設費は、前年度対比4,610万1,000円の増となっております。主な要因は、指定管理委託料2,372万2,000円の増、工事請負費2,361万3,000円の増によるものです。

41ページ目をお願いします。

細目9の総合交流ターミナル施設費は、前年度対比239万6,000円の増となっております。主な要因は、指定管理委託料280万8,000円の増によるものです。

細目11の中新田交流センター費は、前年度対比118万3,000円の減となっております。主な要因は、工事請負費177万1,000円の減によるものです。

続きまして、町営駐車場事業特別会計に入ります。

歳入歳出決算書、379ページから383ページ、成果表で617ページをお願いします。

町営駐車場特別会計の決算額は、歳入合計が226万8,000円で前年度対比14万7,000円の減、歳出合計が221万6,000円で前年度対比5万円の増で、実質支出は5万2,000円となっております。歳入では、前年度対比で駐車場使用料が9万2,000円の減、繰越金が31万1,000円の減となり、一般会計から115万円の繰入れを行っています。商店街道路交通の円滑化を図り、公衆の利便に資するとともに、商店街の機能維持及び増進に寄与するため、町営駐車場2か所の維持管理を行っています。

以上をもちまして、商工観光課の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） これより質疑を行います。質疑ございませんか。12番伊藤 淳委員。

○12番（伊藤 淳君） 12番です。決算書36ページ、ふるさと応援基金繰入金に関連してお聞きをいたします。ただいまの課長の説明では関連する59事業ということで説明がありましたのですが、当初加美町最大のイベントである初午まつりの屋台の手当の件なんです、今回59の事業の中で該当する部分というのはあるんでしょうか。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

ただいまのご質問の初午の屋台の修繕のクラウドファンディングの、ふるさと納税版のクラウドファンディングの件ですが、こちらは令和7年度事業のほうで行っていますので、今回の令和6年度の59の事業の中には含まれておりませんので、よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 12番伊藤 淳委員。

○12番（伊藤 淳君） そのクラウドファンディングの部分とふるさと納税とがごっちゃになって、どっちだろうかなということで、今まで推移してきたと思うんですが、ここの部分でふるさと納税では初午の屋台はなく、令和7年度ということで、それで総予算が幾らであって、それで3つの分団がありますから、それぞれを直すこの事業計画と、この決算では出てこないんですけれども、今の時点でお分かりになれば、次の予算に関連してここでお聞きをしておきた

いんですが、いいですか。

○委員長（三浦又英君） 概略でいいですから、説明をお願いします。課長。

○商工観光課長（阿部正志君） ただいまのご質問で屋台の修繕でございますが、3つの分団ございまして、総額で1,600万円ほど見込んだ修繕料となっております。そちらのほう令和7年度のふるさと納税版のクラウドファンディングを使いまして、お金のほう皆さんにお願いしている状況でございますので、以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 質疑ございませんか。11番沼田委員。

○11番（沼田雄哉君） 11番。成果表の196ページ。ここにふるさと応援基金の関係が出ています。令和5年度と比較をするためにも、昨年の決算審査のときと少し似通った質問をさせていただきたいと思います。

まず1つ目、寄附受入れの窓口として15サイトあるようですけれども、この利用が多い順に上位何点か5つぐらい、件数も併せてお願いしたいと思います。

2つ目として、返礼品で人気の高いもの、これも上位何点か、できれば5つぐらい件数もお願いします。

それから3つ目として、加美町へのふるさと納税が多い都道府県、これも上位何県か、件数も併せてお伺いいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

まず最初のご質問でございます。寄附の受け手となる15サイトのうちの利用が多いサイトの順位。順位といいますか、順番でございますが、まず一番加美町の中で多く使われているサイトが楽天になっております。楽天が令和6年度の段階で、件数が3,407件の実績でございます。続きましてふるさとチョイス、ふるさとチョイスは1,572件、続いて3番目でございますがふるナビ、ふるナビが1,177件、4番目がさとふる、さとふるが1,634件、あと最後になりますが5番目がふるさとプレミアム、件数が254件の順番になっております。

続いてのご質問が、多い返礼品の内容でございますが、返礼品の商品名のほうでご説明させていただきますが、一番多く出たものが発芽玄米パック ご飯金のいぶきでございます。こちらが586件、あと続きまして江崎グリコレトルト食品詰め合わせ、こちらが513件、続きまして国産100%の十五穀米200グラム入りの3パック、こちらが468件、続きまして宮城県産金芽米ひとめぼれ5キログラムの無洗米、こちらが264件、最後になりますが、宮城県産のつや姫5キログラム無洗米、こちらが209件という順番になっております。

最後になりますが、ふるさと納税をいただいている多い県数でございますが、都道府県別にお答えしますと、1位はやはり東京都から2,655件いただいております。あと続きまして神奈川県、1,051件、続きまして愛知県596件、大阪府561件、あとは宮城県の521件という順位になっております。

以上でございます。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） 11番沼田委員。

○11番（沼田雄哉君） ありがとうございます。また、ふるさと納税の関係ですけれども、加美町から他の市町村にふるさと納税された状況。多分令和5年度分になってくるんでしょうか。これも上位何件かお伺いしたいと思います。

それから返礼品について、登録返礼品のまず数ですけれども、1,732になっています。そのうち利用された分、どのぐらい利用されたのか、お伺いをいたします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） まず最初のご質問の、加美町からほかの市町村へふるさと納税がどれぐらいいるかという内容でございますが、加美町としては件数とかはちょっと拾えない状況でございますが、加美町の人のほかの市町村にふるさと納税で協力している人数と金額は、町のほうで拾っていますのでそちらの回答でよろしいでしょうか。加美町の方が592名、あと総額にしまして4,477万100円をふるさと納税という形で、数字のほうは拾っておりますので、よろしくお願いいたします。

続いての質問で、登録が1,732件のうち利用数でございますが、登録件数1,732件のうち利用された返礼品の数でございますが、516件、516品の数字になっております。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 11番沼田委員。

○11番（沼田雄哉君） ありがとうございます。それから成果表の222ページ。ここに陶芸の里温泉交流センターの関係が出ています。それから228ページ、ここには保養センターの関係が出ています。林泉館、やくらいコテージ、ゆ〜らんど、あるいはゆ〜らんどのキャンプ場などの利用については、オンラインでも販売しているようです。そこでオンラインの販売の割合ですけれども、全体の何割くらいになるのか。これ件数が分かれば件数でもよろしいです。これは施設ごとにお伺いできればと思います。

それから、町の宿泊施設利用に関わる旅行代理店、ここへの支払手数料、どのぐらいになっているかお伺いいたします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答えいたします。

まず町内の観光施設に宿泊施設ございまして、そちらのオンラインでの予約状況でございますけれども、ならしめますとおおむね七、八割がオンラインでなっているというような状況になっております。個別にお話ししますと、まず林泉館につきましては、74%の方がオンラインで予約をしているという形になります。続きまして、やくらいコテージにつきましては80%。続きまして、ゆ〜らんどコテージにつきましては81%、ゆ〜らんどキャンプ場につきましては70%でございます。

続きまして、旅行代理店への手数料の支払額でございますが、林泉館につきましては約222万円、やくらいコテージにつきましては約600万円、ゆ〜らんどコテージとゆ〜らんどのキャンプ場につきましては、合計額ですが、約400万円となっております、合計で1,300万円ほどの数字をつかんでいるところでございます。よろしくお願いします。

○委員長（三浦又英君） そのほか質疑、2番早坂 潔委員。

○2番（早坂 潔君） 2番です。私もまず196ページ、ふるさと応援寄附金のことで質問させていただきます。沼田委員とちょっと別な視点で、ポータルサイト料が600万円以上増えたということで裾野を広げたかと思うんですが、結局費用対効果に見合わなかったサイトはなかったかということをやっと1つお聞きしたいと思います。

2点目が220ページですね。地場産業施設管理事業で利用件数が3件にもかかわらず、利用料というのが昨年よりもかなり令和5年度よりも増えたということで、単価でいうとかなりの単価ということになるかと思うんですが、このちょっと要因についてお聞かせいただきたいのと、あともう1個がちょっと何個かの施設を一括してお聞きしたいんですけれども、やくらいウォーターパークの修繕の報告は2枚あったと。薬師の湯ですとかゆ〜らんどは1枚、一括で報告されているところ、これは振興公社のほうから報告があるたびにその資金を使っているのか、その辺ちょっとお聞かせください。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

私のほうからふるさと納税のほうのご質問に対してお答えさせていただきます。15サイトのうち見合わない業者さんはどうなのかというご質問でございますが、多いところは先ほど沼田委員さんのご質問で、上位5施設は答えさせていただきましたが、そこには多くは偏っている

んですが、ほかの15施設、少なくとも必ず問合せもありますし扱いもあるという形ですので、見合わないとは我々は思っていませんし、それだけ広く世の中に加美町が出回るということで、費用対効果的にはいっているのかなと感じておるところでございますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答えします。

成果表220ページの地場産業施設管理事業の利用件数でございます。こちら委員ご指摘のとおり、ちょっと不自然な数字にはなっております。まずこちら令和6年度3回となっておりますけれども、一事業者の方が連続して3回の期間を使ったというようなカウントをさせていただいてまして3回としておりますが、1回当たりの利用料につきましては前年度と変わりませんので、本来であれば1日1日をカウントして十何回と記載すべきところを、連続の期間を1回とカウントしていたようでして、3回というような報告を受けております。その報告を受けた数字のまま記載しておりましたので、この実績額と前年度の実績額と件数と比較したときに、相違が見られるのかと思っております。大変失礼いたしました。

また、施設の修繕の関係でございます。こちら健康増進施設費につきましては、令和6年度に予算化されました修繕工事が4件、こちらが成果表198ページのものでございます。続いて、令和5年度に予算化されまして繰越した予算の工事につきましては、199ページの成果表のほうに記載しておりますので、こちらは繰越しの予算ということで、別なページに記載したものでございます。そうしたことで陶芸の里の修繕の箇所と保養センターの修繕の箇所につきましては、1ページという形で表示をさせていただいているところです。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 2番早坂 潔委員。

○2番（早坂 潔君） ありがとうございます。温泉施設の修繕にかかる費用で、例えば陶芸の里でいうと、温水ヒーター更新工事で922万円、あとは薬師の湯でいうと3,049万円かかっているということで、これはどれぐらいの頻度で、もう毎年のようにこの更新工事はしなければならないのか、ちょっとそこについてお願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答え

いたします。

陶芸の里の温水ヒーター九百二十何がしかかっております。また、保養センターのやくらい薬師の湯の真空ヒーター、ボイラーでございますが、こちらが3,000万何がし昨年度かかりました。保養センターのボイラーにつきましては、令和5年度にも小規模な工事を行いまして、延命を図ったところではあるんですが、やはり抜本的に更新が必要だということで、令和6年度に予算化をしまして執行したというような部分でございます。この薬師の湯のボイラーにつきましては、薬師の湯ができたときから使用しているものと伺っておりまして、そこから部品など小規模な修繕工事はこれまで何度か行ってはきておりますが、抜本的な更新というのは二、三十年に一度あったというような状況で、今回が初めて更新というような認識でございます。ゆへらんのボイラーにつきましても、同じような認識でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 2番早坂 潔委員。

○2番（早坂 潔君） 先々見て修繕していただいていると思いますけれども、どうしてもお湯も、温泉もある意味生き物だと思いますので、緊急でもうちちょっと営業が危機になるようなことがある、そういった緊急メンテナンスがあり得る可能性はある事業だと思うんですけれども、そういったときの一応予備資金というかそういったものは常に構えて用意されているものでしょうか。お願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長です。

まず当初予算のほうで、ある程度更新が必要なもの、修繕が必要なものというのは見込んで予算計上しているところでございます。なお例外的に緊急で直す必要があるものにつきましては、これまでの実績でいけば、予備費を流用したりですとか現在の予算を活用して、緊急的な工事を実施している。あるいは補正予算のタイミングで予算要求をさせていただいて、執行しているというような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 1点だけお伺いします。成果表の196ページ、決算書は36ページですが、ふるさと納税の先ほど来出ておりますが、ふるさと応援基金繰入金についてです。ここに成果表に寄附金受入れ状況として表が載っていますが、活力あるふるさとづくりのために、ふるさとの未来を担う子どもたちのために、ふるさとの自然環境を守るために、若鮎型給付型奨学金

事業とあるんですが、ふるさとの自然環境を守るためにまでの3用途について具体的にどういうことに使われたのか。そこに資料がありましたら説明をいただければと思います。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

決算成果表の196ページの寄附金の使い道ということで、活力あるふるさとづくりのためにから、ふるさとの自然環境を守るために、具体的にどういった事業に充てているかというご質問でよろしいでしょうか。

まず令和6年度でございますが、まず活力あるふるさとづくりのほうにでございますが、移住促進事業ですとか、あとまちづくりのほうの移住促進事業、あと農業振興のほうのブランド推進事業、あと地産地消交流推進事業としまして、グリーンツーリズムですとか学校給食のほうに充てている状況でございます。

あと続きまして、ふるさとの未来を担う子どもたちのためにという事業でございますが、子育て応援出産祝金ですとか、あと小学校のエアコン洗浄業務、あとGIGAスクールサポーターなどの事業に充てております。

あと続きまして、ふるさとの自然環境を守るためにの事業でございますが、こちらは内水面事業のアユなどの稚魚の放流、あとあゆの里環境整備事業ですとか、あと薬菜山の登山道、船形山の登山道の整備事業などに充当させていただいております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 8番伊藤由子委員。

○8番（伊藤由子君） 事業の内容がよく分かりました。それで最後の若鮎型給付型奨学金事業なんですが、四百五十何万円ぐらいになっているようですけれども、459万何がしになっていますが、現在の若鮎型奨学金の支給状況についてお伺いします。ここでは駄目かな、駄目ですか。じゃあ今後のこの見通し、これからもずっと奨学金事業を継続していけるような見通しはおありでしょうか。その確認をちょっとして、関連して何かお話ししていただけたことがあれば。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

この若鮎の関係ですが、資金調達といいますか寄附の窓口として、商工観光課のほうの事業はしていますが、基金の繰入れ、使用、そちらに関しましては教育委員会のほうになっていますので、申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。4番佐藤委員。

○4番（佐藤圭介君） 4番です。説明書の201ページ。アユの関係ですけれども、つい1週間ぐらい前に、あんたのほうでアユの塩焼き食べるところないのかというような連絡が来まして、駒庄さんを紹介しましたら、すごくおいしく食べていた写真を送ってくれたんですが、アユ、これだけのお店で常に出しているということ、現在どのような形で周知をしているのかお聞きします。

それから2点目、もう1つなんですが、駒庄の関係、同じく説明書230ページなんですが、右側事業内容を見ますと、この売上げ、年度を追うごとに順調に上がっているように見えるんですが、目標が年々上がっているがために、この目標対比のパーセントがどんどん下がっているという、この目標の立て方、どういったことで立てているのかということをお聞きします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

まず最初、1点目のご質問でございます。アユの関係でございますが、令和6年度5件のお店でアユの補助金を使っていたいただいて、お昼ご飯、あと夜のお膳などにつけていただきました。かなり令和5年度よりも数のほうも増えまして、アユのPRに努めていただきました。

また、商工観光課としましてもPRの仕方でございますが、町のホームページなども使ってPRしていますし、あと各お店ですとかあと振興公社、あと観光協会などの協力ももらいながらPRさせていただいております。あと外販などで行ったときもチラシなどを配って、ぜひ加美町のほうにアユを食べに来てくださいというふうにPRをさせていただいているところでございます。

あと2点目の駒庄の関係でございます。駒庄のほうも令和6年度も売上げのほうも伸びておりますし、入込みのほうはちょっと減っているんですが、売上げのほうは伸びている状況でございます。まだ令和7年度に関しましても、さらに売上げのほうは伸びておりますが、この目標ですが令和5年度に比べまして、令和6年度の目標額を定めるときなんですが、やはりいろいろ物価ですとかそういうのも高くなってきて、あと修繕などもかかりますので、これぐらいはみんなで頑張りましょうねという目標数値を立てさせていただいております。ただちょっと高いなということで、このパーセンテージが落ちてしまうところありますが、職員の方々のモチベーションにもつながるということで、これを目標にということで頑張らせていただいているところでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 4番佐藤委員。

○4番（佐藤圭介君） 4番です。ご説明いただきましてありがとうございます。2点目の目標、もちろん高く設定をしてということをなんです、逆にモチベーションが落ちないかなという心配もありますので、この辺も勘案しながらお願いしたいなと思っています。

違う質問をあと2つほどさせていただきます。説明書214ページ、モンベルフレンドタウンの関係です。昨年度の決算の説明書を見てみましたら、これこのときも星でいうと2つであります。端的に言えば費用対効果をどのように考えるのか、お聞きしたいと思っております。

それからもう1つですが、232ページ、山村ふれあい公園管理事業、やぐらいのパークゴルフ場が主だと思うんですが、225ページ、ふれあいの森の資料もございしますが、こちらと比較しますと非常に利用者数の落ち込みが大きいなという感じがしていますが、この辺どのような要因があるというふうに分析をされているかお聞きをします。

それからもう1つ、あの敷地内にランニングバイクパークというんですかね。整備した、すぐ隣で仕事しているので、いっとき三、四年前ですかね。すごく就学前の子どもたちが、いわゆるランニングバイク、ペダルのない自転車で、大会もあったりしたかと思うんですが、その関係でランニングバイク、それからヘルメット等の用具整備をしたことがあったのかなと記憶しているんですが、その辺での利用者あるいは売上げ等分かりましたらお願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答えいたします。

まず1点目モンベル関係の事業でございます。こちらの費用対効果というご質問でございました。まずモンベルフレンドタウンにつきましては、平成28年から登録して関連の事業をしてございます。費用対効果というところにつきましては、まずこのモンベルフレンドタウンの登録料59万4,000円、こちらを年間でお支払いさせていただいて、このモンベルの広報紙のほうに2分の1ページの大きさにはなるんですけれども、こちらに掲載していただいて、全国のモンベルの会員、およそ110万人いらっしゃると言われておりますが、そういった方々に情報発信をしているというような状況になります。そうした情報発信の効果がまず1つ。

また、このフレンドタウンに登録することによって、モンベルのオンラインサイトの中で、フレンドマーケットと言われるふるさとのモンベルフレンドタウンの会員の会員内の事業者、自治体内にいる事業者が登録して販売できるようなECサイトがございします。そういったところへの登録販売が可能になると。また、モンベル会員の方がある種の優待的なものが得られるモンベルフレンドショップというものが、このフレンドタウンのエリア内にございします。加美

町にも20か所ほど、公社で管理している観光施設はじめ民間の管理施設もございますが、そういったところでコーヒーのサービスだったり入浴の割引であったり、そういった優待が受けられるというような状況になっております。

どうしてもこの成果表自体で、このフレンドショップの優待の利用件数というものを、この事業の成果表の目標と実績で取り扱っている関係で、なかなか目標件数が上回れないというのが現状でございます。成果表では星が2つのような状況ではございますが、そういった全国的なPR発信というのがなされているというところでの、費用対効果を町側で把握しているところでございます。

続きまして、パークゴルフ場の利用につきましては、一番今回昨年度で影響を受けた部分につきましては、当然ながら近隣のパークゴルフ場の整備が進んだためによる来場者数の減少というものは根本的にあるのかと思っておりますが、それに加えて徐々に減っている利用者の減少、また、高温による夏場の利用の差し控え、そういったものがつながっていると思っております。特にやぐらいのパークゴルフ場につきましては、大型の大会が高温により見送られたというような情報をいただいております、その大会が見送られたために、事前の練習される方々もそれによりなくなってしまったという部分があって、減ったというふうに担当のほうでは認識しております。

3つ目のランニングバイクの関係でございますが、こちら平成30年からランニングバイクのレンタルの事業開始しております。初年度、またその次の年につきましては、1,200件ほどの件数がございました。近年では700件から800件ほどで推移しておりまして、昨年度につきましては、720件の利用があったと報告をいただいております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 4番佐藤委員。

○4番（佐藤圭介君） ありがとうございます。1点目、モンベルフレンドタウンについては、確かにこの目標の設定の仕方というところがあるかなと思うんですが、もう少し詳細にこの効果というものを検証してみてもいいのかなと思っておりますので、成果の指標の見直しというものもしてもらえたらいいかなと思っております。

ふれあいの森のことについては承知をいたしました。

最近、またこのランニングバイクについては、ほぼほぼ利用しているような姿というのが見えないなと思ったものですから、ちょっとお聞きをしたところでした。

以上です。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

今、係長のほうも、4番委員さんのご質問に回答しているところでございますが、モンベルの関係でございますが、数字的なことはやはり低いなど、私のほうも今回の成果表を見まして反省しているところ、まだ考えなければいけないところだと感じております。

ただ、この間も荒沢のほう、この間といいますか夏前でございますが、荒沢のほうの自然館のほうに行ってみたところ、やはりモンベルの仙台店のほうのチラシを見て、来てみたんだというようなお客さんも出会うことができますし、全国のモンベルショップに行けば、鳴瀬川、薬菜山という形で、加美町のモンベルの冊子のほうは必ず常駐している。あとジャパンエコトラックのパフレットも常駐しているという形です。最近ちょっとモンベルのほうとも、私のほうも意見交換もしていない状況ですので、これを契機にもう1回初心に戻って、いろいろお話ししてみたいと思っております。

あとやぐらいのパークゴルフ場に関しましてですが、利用の人数はこのとおりの数字で、どんどん減ってきている状況でございます。また中新田のパークゴルフ場のほうも、利用人数はほぼ昨年度と変わらない状況でございますが、どうしても夏場は減ってしまったという状況でございます。そういう状況もありまして、商工観光課としまして、各パークゴルフ場のほうと夏場の営業時間、早出の営業ですとか夕方目がけて、あと日中は外出禁止というようなイメージの気温でしたので、営業の時間の見直しなども検討したところがあったんですが、どうしても今の職員の人数とシフトの関係で、芝生の管理ですとか、そういうシフトがどうしても組めないということで、今年はいまうまいかなかった状況です。これは来年に向けての課題だと商工観光課では捉えていますので、もうちょっと課題として取り組ませていただきます。

あとランニングバイクパークでございますが、これもちょっと流行もあったのかもしれませんが。ただ、町のほうでも公費を使わせていただいて、かなりの台数を整備させていただきました。今、幼稚園のほうに貸出しもして、町内の幼稚園のほうで順番ですが使ってもらっている状況でございますので、そういう使い方もさせていただいていますということを報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんか。9木村委員。

○9番（木村哲夫君） 質問は1点だけです。成果表234ページ、ボルダリング施設の関係なんです。ここに書いてあるように令和6年度で一応休止ということで、過去遡って利用人数を見

ても、平成30年7,481名、どんどんどんどん減っていった、令和6年は2,127名という状況で、指定管理のほうもこれで終わったということなのですが、まずこれをどのように評価しているのか。そして、現在休止ではあるけれども再開も目指すというお話も聞いておりますけれども、どういう状況なのかですね。指定管理費用だけでも恐らく5,000万円以上は多分かかっているんじゃないかなということと、それと工事費等々も含めると、果たしてこの事業はどうだったのか、一旦考える時期に来ているのではないかなという思いをしております。その点について伺いたいと思います。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

今、9番委員さんのほうからもありましたとおり、ボルダリングのほう、令和7年3月31日付で一応指定管理のほうを終わらせていただいている状況でございます。

再開に関してということでございますが、今年度の施設の使用内容でございますが、国体の宮城県の選手、高校生の国体の選手の強化の練習の場所として、山岳連盟に使っていただいた実績がございます。そういう使い方もいいのかなとは私たちも思って、振興公社のほうと相談しながら許可したという内容でございます。

あとこれからどうしていくんだということでございますが、そういった使い方も大事にしていきたいなと思いますし、あと指定管理として常日頃あそこの運営という形で、5月か6月になりますが、県内でボルダリングを運営している施設のほうにお手紙という形で出させていただいております。やぐらいのボルダリング施設のほうで、今、こういう状況ですと、興味がある方は、ご質問など受けますよという内容でしたが、1件2件質問は来ております。どういう形で指定管理なんですとか、何か考えありますかというご質問をいただいておりますが、うちのほうとしては施設、指定管理のほうには出したい気持ちもありますと、にぎやかにやぐらいのほうで振興公社含めて、施設一体となつてにぎやかにやりたいという気持ちもありますが、指定管理のほうは極力少なく費用対効果を多く上げてもらえるような計画があれば、相談に乗りますというお話をさせていただいているところでございます。ただ、今は閉めて清掃をしている、指定振興公社にお願いして清掃だけをしていただいている状況でございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 9番木村委員。

○9番（木村哲夫君） 現時点で考えられるというか、なぜその指定管理者とこういう状態になったのか、もしくは例えば入会金の関係だとか様々運営上も含めて、どういった点が反省点と

いうか、その辺というのは役場内といいますか、町の中では検証はされているのか。その辺をきちんと原因を追究しないと、今後新たな指定管理者を募集したときも、またその同じようなことになるのか、そういったことは整理されているのかどうか、現時点でありましたらお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

この指定管理、3月で終わるとき、その辺のときの話になりますが、やはりボルダリングが始まった頃はボルダリング人気がずっと上っていきだろうと。オリンピックを契機にしてどんどん人数が増えてくだろうという形で、それを見込んでやくらいの施設に造らせていただいた経緯がございます。ただ、その後ですが、やはり乗り切れなかったというところは正直あります。正直ありますし、あとあそこの場所に対してのボルダリングの運営の仕方が、やはり当時の人気が上がってきた頃は当然あったんですが、だんだん競技人口が減ってきてても同じような考えでやってしまったと。それに対して、商工観光課のほうもうまく相談に乗りきれなかった。この二、三年は特にそれが続いてしまったのかなと思っています。もっと寄り添うべきだったなと商工観光課のほうで反省しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） 今の木村哲夫委員の質問にちょっと私も関連で。そのボルダリング施設なんですけれども、地方創生の交付金を活用しているはずなんですけれども、これ万が一ボルダリングとして活用できなくなった場合、返還金が発生するんじゃないかという心配をしております。概算でいいので返還金が請求されるとしたら、どれぐらいの金額になるか分かれば、お答えいただきたいなと思います。

次に、あと2点聞きます。2点目が成果表の212ページの観光振興事業というところでこの観光振興事業、細かいのが様々ありますけれども、この中にこの令和6年度からグッズ作成関係ですね。グッズ作成関係に令和6年度から力を入れて取り組んでいくんだというようなお話があったと思います。デザイン関係で11万円、あとキャラクターグッズ製作で30万円等が今回の決算でかけられましたというようなお話でしたが、具体的にどういったものを作ったのか、またこれの販売場所や販売方法、観光まちづくり協会等々でやるんでしょうけれども、観光まちづくり協会のほうで話を聞くと、やはりロットがまとまらないので販売価格も上がってしまうというような話も聞いています。この辺の計画どのような形になったのか、これによっ

ては、令和8年度予算に関係もしてくるのかなというところがありますので、この辺の部分に関して教えていただきたい。

もう1点が、ちょっと軽く通告をしてしまったような状況になるんですけれども、駐車場管理事業ですね、ページ数が成果表617ページ、決算書382ページです。この辺に関しましては、支出の金額が221万6,000円というところの支出に対しまして、収入が86万円ぐらいというところで、歳入が86万円ぐらいというところで、以前私も一般質問でこれさせていただいていた部分ではあるんですけれども、やはり施設の清掃、あるいは機器の保守委託料等々入れると、簡単にこの歳入を超してしまうような状況になっています。この辺の考え方はもしかすると担当課ではなくて、執行部の皆さん、そろそろ発言をしてもよろしいのかと思います。ぜひお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

最初に1点目のボルダリングの件でございます。まず地方創生のほう活用させていただいておりますので、まず10年間はボルダリング施設のほうは続けなくてはいけないと要件的には考えております。それを10年たたないうちにやめた場合ということの返還金ということでございますが、ボルダリング施設、躯体工事のほうがない事業でして、備品購入ですとか建物はそのままあったものに対して壁を造ったという形ですので、それに関しての計算方法はしっかりしたところ、まだ県のほうにはまだ続けるという気がありますので、相談していない状況でございますので、申し訳ありません。金額のほうは申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長です。

私のほうから、観光PRキャラクターグッズの製作につきまして、実績を報告させていただきます。こちらについては昨年度、まず予算上は10件の予算を取っていたわけではあるんですけれども6件、1件につき5万円補助しておりまして合計で30万円というような決算状況でございます。

主なグッズでございますが、観光協会のほうで作っておりますかみ〜ごのぬいぐるみ、中勇酒造さんでつくられているぼのぼのキャラクターのお酒、あとなかじさんで作られたポーチ、あとふみえはらはんさんで作られた干し芋、クローバー総研さんで作られたかみ〜ごの絵はがき、あと佐々惣建設さんの看板事業部さんのほうで作られた小型のホワイトボードというよう

な内容になっております。

こちらまずは昨年度、このグッズを補助金を活用して、町内の事業者に対して製作いただいたというような状況で、まずは終わっております。今年度につきましても、引き続きこのグッズの補助金を活用して、町内の事業者にもっともっとたくさんかみ〜ご、またはぼのぼのの関連グッズを作っていただいて、町のほうでもどんどんPRしたいと思ひますし、販売も各事業者の中でしていただいて売上げを伸ばしていただきたい。あとはその中で加美町のPRもしていただきたいという思ひでござひます。

今後、我々もこういったグッズが一定数量、一定ラインナップそろった段階で、まずは町内の観光施設の中で一括して販売する場所を設けたりですとか、そういったところはただいま検討中ではござひますので、まだ実現はしておりませんけれども、そういった状況ではござひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でござひます。

○委員長（三浦又英君） 駐車場。副町長。

○副町長（千葉 伸君） 駐車場の件についてお答えします。

私も、当初あそこ商店街歩いたときは、2つ駐車場実はあったんですね。この駐車場機能しているのかな、車いつも止まっているようですので、これどういうものなのかなと思ひていたら、いろいろ書類見ると大分赤字の駐車場だということでありまして、であれば何らかの形で、加美町、それからちょうど商店街の真ん中にあるわけですから、あれを何かの活用方法できないかなとは常々考へておりました。これ町長ともいろいろそういうような話はしておりました。じゃあこれというのはなかなかなくて、あそこをじゃあ整理して例えばいろいろなお祭りのとき、皆さんに開放しようか、いやそれでも年間何回使えるんだ。それじゃあきれいなトイレが欲しいのでトイレを整備して例えば初午、それからトイレであれば365日町民の方にも使えるんじゃないかとか、いろいろ頭の中駆け巡っておりました。

今、委員から指摘あったとおり、この状況で歳入のほうが少ないて一体どうするんでしょうかというような、ごもっともだと思ひます。商店街の方々ともお話をして、それからやっぱり役場内でもいろいろなアイデアとかあるのかもしれないので、これを何とかするような方向で検討しなければいけないというような課題の1つでござひます。お集まりの委員さん方もぜひ何かいい案がありましたら、ぜひともお聞かせいただきたいなと思ひております。課題、大きな課題の1つだという認識ではござひます。

○委員長（三浦又英君） 14番高橋委員。

○14番（高橋聡輔君） ボルダリングの件は了解いたしました。

グッズ作成の関係に関してなんですけれども、やはり初午なんかを見ていまして、かみ〜ごのぬいぐるみは実際に見ました。買いたいですけどロットの関係で非常にまだ高いんですよ。我々議員のほうでも、かみ〜ごあるいはぼのぼのは版權の関係で非常に難しいというの聞いていますし、ただ我々も今、みんなで地域で盛り上げていこう、観光を盛り上げていこうということで、今回名刺も作成することになっているんですけれども、そういった意味合いでも、我々もかみ〜ごのグッズですとかそういったものを持てるようなものが何もないんですよ。そういったものに関しても、どんどんPRできるような、また小学生ですとかそういった学生が簡単に使える、今、ラインナップを聞いたところなんですけど、全部結構大きいじゃないですか。もう少しコンパクトに、隣の市のパタ崎さんでは何やら帽子までできているような雰囲気もありますし、あとは小っちゃいキーホルダー的なものがあったり様々なグッズがあるので、そういった展開っていうのをちょっと期待してしまうところがあります。ぜひそういった展開を検討しながら、令和8年度予算に入れていっていただきたいという思いがありまして質問をさせていただきましたので、回答あれば回答をお願いします。よろしくお願いします。

あと駐車場管理のほうに関しましては、副町長のほうからそのような話をいただきました。実際に清掃費だけでも40万円、ごめんなさい、清掃費だけで48万4,000円、機械警備委託で50万円という金額を超えていまして、様々なところを考えてもここまでの大きさが要るのでしょうかという、全部が全部駐車場として活用していない状況がありますし、またゲートの部分で壊れてしまうとその修理だけでも相当な金額がかかっている状況にありますし、ここのやり方というのも検討しなきゃいけない時期にもうあるのではないかと。以前の一般質問では、その半分を駐車場として活用しつつ、もう半分を違う形で使えるようにできないのかとか、様々な案は出させていただいたんですが、その辺も含めてもうそろそろ限界が来ているんじゃないかというところの考えがあります。その辺についてもぜひ検討をしていただきたいという思いでの質疑でございます。よろしくお願いします。答弁あればお願いします。

○委員長（三浦又英君） 課長、お願いします。

○商工観光課長（阿部正志君） 商工観光課長でございます。

まずグッズ作成でございますが、また議員各位におきまして、名刺なども作っていただいて観光PRしていただけるということで、大変ありがとうございます。

観光課としましても、先ほど係長からもグッズの開発のことをいろいろ回答させていただきましたが、そのほかにも振興公社ともいろいろ話をさせていただいております。今、委員さん

に言われたとおり、ちょっと今あるかみ〜ごのぬいぐるみがちょっと大きめで高額だということとは、私の耳にもちょくちょく入ってきております。子どもがやっぱりちょっと買いにくい金額だよと。ただ、協会の話も分かる話ですし、そこを何とかしようということで、今、協会と公社とでちょっと小さめで、それでもうちちょっと少額でもうちちょっと柔らかい素材といいたいか、子どもも持って受けるようなやつを何か考えましよう、令和8年度の事業で考えましようという形で話はしているところでございますので、もうちょっとお待ちになつていただきたいと思います。

あと、続きまして駐車場の件でございます。先ほど副町長からも回答いただきましたが、やはり駐車場の平成の時代からの年表を見ましても、南町駐車場のほうは平成の10年代も五十何万円の使用料、年間収入が50万円、60万円台で推移していたものが、令和5年6年には30万円台まで落ち込んでいると。あと西町のほうは、当時240万、50万円の使用料収入があったものが、今、60万円台までずっと下がってきている状況でございます。商店街の中のお店の変動というものもありますし、人の流れなどでこの金額も変わってきたのかなと感じているところでございますが、今、商店街の活性化ということで、取組が始まったところでございます。その中の活性化委員会ですとか、あとにぎわいづくり委員会の中でも、中新田の商店街に対して、今後どのようにしていったらいいのかという、活発なご意見を出していただいているところでございます。商店街の活性化の事業が始まってきていて、その中で活性化委員会のほうでは、ゾーニングのつくり込みですとか、土地の利活用などのほうも併せて宮城大学のほうと一緒に連携して考えていきたいと考えていますので、その中で駐車場のほうも一緒になって考えていくような流れになると思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 副町長。

○副町長（千葉 伸君） もう一度答弁させていただきます。

いろいろボルダリングも、そもそも読み間違った事業だったんじゃないかなと思います。当時いろいろな人気でわっと飛びついたという、将来予測を読み間違った。それでだんだんお客さん当然少なくなった。それで無制限に町もお金をどんどんどん出しているわけじゃございませんので、そういう意味では非常に甘い事業だったのかなと思っておりました。

それからグッズの件に関しては、私も頑張つてかみ〜ごのぬいぐるみを1つ買いました。やっぱりお子さんが買うのにはちょっと高いかなと。ただ熱烈なかみ〜ごファンというのもしゃいますので、いろいろ許す限りいろいろなものを作って例えば安く、それから皆さんに

持っていただけるようなグッズの作成どこまでできるかというのを考えていきたいと思います。

駐車場の件に関しては、これからいろいろ検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（三浦又英君） 1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） 1 番田中です。成果表197ページについてお伺いいたします。ウォーターパーク、利用者数自体は減少しているけれども、売上げについては予算109%、昨年度比でも大きく伸びているというところで、公社の皆さん、課の皆さんの努力の成果なんだろうなと思ひまして、敬意を表しております。

ここから質問なんですけれども、売上げ500万円ぐらいアップパーをしていると達成をした上で、指定管理料、1月の補正で増額されているかなと思うんですけれども、この指定管理料の考え方、どのように算出して決定されているのかというところ、恐らく指定管理されている全てに言えるのかなとは思ひなんですけれども、どのように決めているのか。売上げ上がったからその分下げてもいいよねというのだと、ちょっと売上げを上げるモチベーションも下がっちゃうかなというところも思ひておりましたので、必ずしも上げたのが悪いという意図ではないんですが、それが1点目です。

2つ目、今回人数としては減ったけれども売上げとしては上がったというところ、恐らく値段を改定されたというところが大きいと思いますけれども、昨年度と比べて来ている方の層、年齢だとかどこから来ているのかとか、そういったことがもし変化として分かっていたら、ぜひ共有をいただきたいなと思ひております。

以上2つでございます。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答えいたします。

まず1点目、ウォーターパーク、それ以外の施設も関係するかと思いますが、まず1月の補正に関しましては、燃料代の高騰ですとか人件費の関係ですとか、そういった物価高の関係で補正したというのがまずございました。ただしこの指定管理料の考え方につきましては、通常の方でいけば、支出のほうを積み上げた上で自己資金なども、あとは利用収入なども鑑みて、その上で不足分についてを自治体のほうが指定管理料として委託契約を結ぶというような考え方でございます。ウォーターパーク、それ以外の施設につきましても、同様の考え方で指定管理料のほうを算定してございます。

続きまして、2点目のウォーターパークの客層、利用者数については若干減っておりますが、利用売上げにつきましては増加していると。これについては委員ご指摘のとおり、価格の改定というのが一番大きい理由でございます。また、最近の傾向といたしましては、やはりファミリー層が大きいというのと、ネットで検索したときに、福島の大型のプールがあると。そちらの次に、加美町のウォーターパークが出たりというサイトもありまして、利用料金なども比較したときに、本町のウォーターパークのほうがお手頃というところもありまして、選ばれる1つの原因というのも考えております。またウォーターパークにつきましては、インターネットを通じて発券をできるというサービスもございまして、そういった利用もあるというところを見込んでおります。じゃらんとかでオンラインでの予約などもできるということで、そういったのも利用者数は減ってはいるんですけども、裾野が増えている、広がっているのかなと。あとはレストランの利用が夏場非常に大きいということで、今期ですと1日40万円以上稼ぐ日もあったと聞いております。

そういったところで、公社の職員につきましては、7月8月非常に書き入れどきで、大変な時期だったとお伺いしておりますけれども、そういった利用者の裾野の広がり、または食堂の増加といったところもありまして、売上げが伸びたと分析しております。どこから来たかというところでございますけれども、そちらについてはちょっと資料のほうは持ち合わせてはおりませんけれども、やはり夏場が一番売上げが大きい時期でございまして、やはり夏休みを利用した町外からのお客様が非常に多いんだろうと認識しております。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） 1 番田中委員。

○1 番（田中草太君） ありがとうございます。町外の方多いんじゃないかというところでご答弁いただきましたけれども、感覚でも構いませんし、例えばナンバープレート見てとかでもいいんですけども、ざっくり町外、県内、県外ぐらいで、もし感覚でもいいのであればということと、恐らく来年度とかになるのかなと思うんですが、以前一般質問でも少しだけ提案させていただいていた、位置情報を使ってどこから来てるか分かるようになるよねというところがあると、公社の方も集客とかどうやって長くいてもらおうとかか考えるようになるかなと思います。ちょっとその検討状況もお話しできる範囲でお話しいただけたらと思います。お願いします。

○委員長（三浦又英君） 主幹兼係長。

○商工観光課主幹兼観光振興係長兼国際ビジネス推進係長（早坂大祐君） 主幹兼係長、お答え

します。

肌感というところなんですけれども、以前こういった位置情報の人流のデータを測定するサービスなどもトライアル版で試した経緯もございまして、そういった感覚でお話ししますと、施設は違うんですけれどもやくらい薬師の湯につきましては、実は町内の方、リピーターの方に非常に売上げを支えていただいているというのが実際のところでございます。ただ、平日はそういった状況が顕著なんですけれども、休日につきましては町外の方が多いと。大崎市ですとか近隣の市町村が多いと。仙台市内、あとは少し離れていますけれども、石巻市ですとかそういったところが多いのかなと認識してございます。

ウォーターパークにつきましては、若干その客層が異なるのかなという部分はございまして、感覚でいきますとやはり仙台市内の方、特に仙台でも県北寄りというか仙台圏域ということで、富谷市ですとか泉区ですとか、県南というよりは県北のほうの方々が多く来場されているのかなという感覚を持っております。

以上でございます。

あと位置情報のことにつきましても、先日もそのような勉強会を企画いただいております。本町としましても昨年度になりますけれども、何とかそういったトライアル版、各そういった業者が便利だよということで、各自治体に使ってみてはということで、そういったレベルで使ってみたところ、やはり非常に高い分析ができるのかなと。ネックはやはり料金で、年契約で200万円以上とかかかる部分がございまして、一自治体でそれをフルに活用するというのは難しい側面もあるのかなと感じております。少し広域的な形で、例えば県ですとかそういった大きな範囲で、こういった人流のデータ、位置測定のデータというのを活用できて、それを各自治体が恩恵を受けるような形であればぜひ活用してみたいなという気持ちでおります。

以上でございます。

○委員長（三浦又英君） その他質疑、6番早坂忠幸委員。

○6番（早坂忠幸君） 成果表の220ページから何枚もあるんですけれども、商工観光課管轄の中で、この中で指定管理料が随分あります。ほかにもこれまでもあったんですけれども、この成果表の書き方なんですけれども、指定管理料が入っている施設に対して、おおむね達成されたとありますよね。ちょっとこの辺疑問に思ってるんです。

というのは、逆に言えば、町の施設を貸して使用料を頂いているところもありますよね。例えばハイツみたいな感じ、ああいうところは完全に達成されたと言えるんでしょうけれども、億単位で何千万単位で出している施設に対して達成されたというのは、これは町のほうでこう

いうつくり方決めたんでしょけれども、この辺の考え方少し、もう少し変えたほうがいいのかなと私は思っているんですけども、この辺総務課長ですか。

○委員長（三浦又英君） 総務課長。

○総務課長・選挙管理委員会書記長（佐々木 実君） 総務課長です。

以前企画財政課のほうで、成果表のこの資料を作って、今現在は行政経営推進課のほうでこの指標の作成というルールを決めて、全庁的にそれに倣ってやっているのが現状ですが、高橋聡輔委員さんのほうからも、指標についてもう少しコスト感覚に見合ったような指標を検討してはいいんじゃないかという話もありましたし、今、早坂委員のほうからも、少し感覚的にこの施設は経済性を伴っているのかとか、コスパにかなう施設なのかとかそういったものを分かりやすい形で表記するようなことも意見いただいた今回の委員会なので、少しその辺も担当課と一緒にちょっともんでみたいかなとは思っているところでございます。

以上です。

○委員長（三浦又英君） その他質疑ございませんでしょうか。（「なし」の声あり）質疑なしと認めます。

これにて、商工観光課の所管する決算については質疑を終わります。

お諮りします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三浦又英君） ご異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会とすることに決定しました。

本日はこれで延会といたします。

なお、明日は午前10時まで本議場にご参集願います。

皆さん、大変お疲れさまでした。

午後 3 時 3 1 分 延会

上記会議の経過は、事務局長青木成義が調製したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名いたします。

令和 7 年 9 月 1 7 日

決算審査特別委員長 三 浦 又 英